墨田区学力向上新３か年計画（第２次）
（令和２年度～令和４年度）

令和元年１１月

墨田区教育委員会

目　次

Ⅰ　計画の策定にあたって

１　策定の趣旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

２　本計画の位置付け　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

３　計画の期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

Ⅱ　前計画の検証

１　目標の達成状況

(1) 長期目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

(2) 短期目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

２　組織的な学力向上の取組の検証　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

３　基本方針に基づいた取組の検証

(1) 児童・生徒の学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。　・・・・　９

(2) 学習内容の定着に課題のある児童・生徒をフォローし、知識の定着を図る。　・・・・・・・・・　１０

(3) 基礎・基本を中心にした確かな学力を身に付けさせるため、教員の授業力向上に取り組む。　・・・　１１

(4) 発展的学習の機会を提供するための工夫に取り組む。　・・・・・・・・・　１４

４　成果及び課題（総括）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

Ⅲ　墨田区学力向上新３か年計画（第２次）

１　基本方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

２　学校・家庭・地域における取組

(1) 学校において　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

(2) 家庭において　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１

(3) 地域において　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２

３　目標

(1) 長期目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３

(2) 短期目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４

４　基本方針に沿った主な事業

(1) 事業体系図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７

(2) 具体的な事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２８

参考資料　墨田区学習状況調査における平均正答率の推移（平成２８年度から平成３１年度まで）　・・・・・・　４２

参考資料　墨田区学力向上新３か年計画（第２次）改定のポイント　・・・・・・　４６

Ⅰ　計画の策定にあたって

１　策定の趣旨

平成２９年３月告示の学習指導要領の前文には、教育を行い達成する目標の一つとして、「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」が掲げられている。この目標は、知・徳・体をバランスよく育み、児童・生徒の「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を高めることで達成されるものである。

墨田区教育委員会は、平成２８年３月に、「墨田区学力向上新３か年計画（平成２８年度～平成３０年度」（以下「前計画」という。）を策定し、児童・生徒が「確かな学力」を身に付けるための「教育委員会の方針・取組」を示した。前計画のテーマは「児童・生徒に、基礎的・基本的な知識・技能等を定着させる」、「児童・生徒の理解度に応じた『発展的学習』により、更に力を伸ばしていく」の２つであった。前計画に基づき、校長は、毎年度「学力向上を図るための全体計画」を、教員は校長が作成した計画に基づいた学力向上プランをそれぞれ作成している。

平成２８年度から平成３０年度までの３年間、学校では、校内研修等による教員の授業力向上を図るとともに、学力向上に向けた取組を組織的に進めてきた。これにより、墨田区学習状況調査における本区の平均正答率を全国平均正答率と比較すると、小・中学校ともに上昇し、基礎的・基本的な学習内容の定着については、一定の成果が得られた。

今後は、夢や希望をもって意欲的に学習に取り組む児童・生徒を育成し、「組織的な学力向上の取組の推進」をもとに、「基礎的・基本的な知識及び技能の定着」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「自ら進んで学びに向かう力」を育むための基本方針を定め、更なる学力向上を目指していく。

２　本計画の位置付け（教育委員会の他の計画との関係）

本計画は、「知（確かな学力）」に関する理念を具現化するための計画であり、「墨田区教育施策大綱」「すみだ教育指針」を踏まえて、本計画を策定する。

３　計画の期間

本計画の期間は、令和２年度から令和４年度までとする。

Ⅱ　前計画の検証

１　目標の達成状況

前計画では、今後１０年間（令和７年度）に達成を目指す「長期目標」と、今後３年間（平成３０年度）に達成を目指す「短期目標」を設定した。

長期目標及び短期目標の達成状況は、次のとおりである。

(1) 長期目標

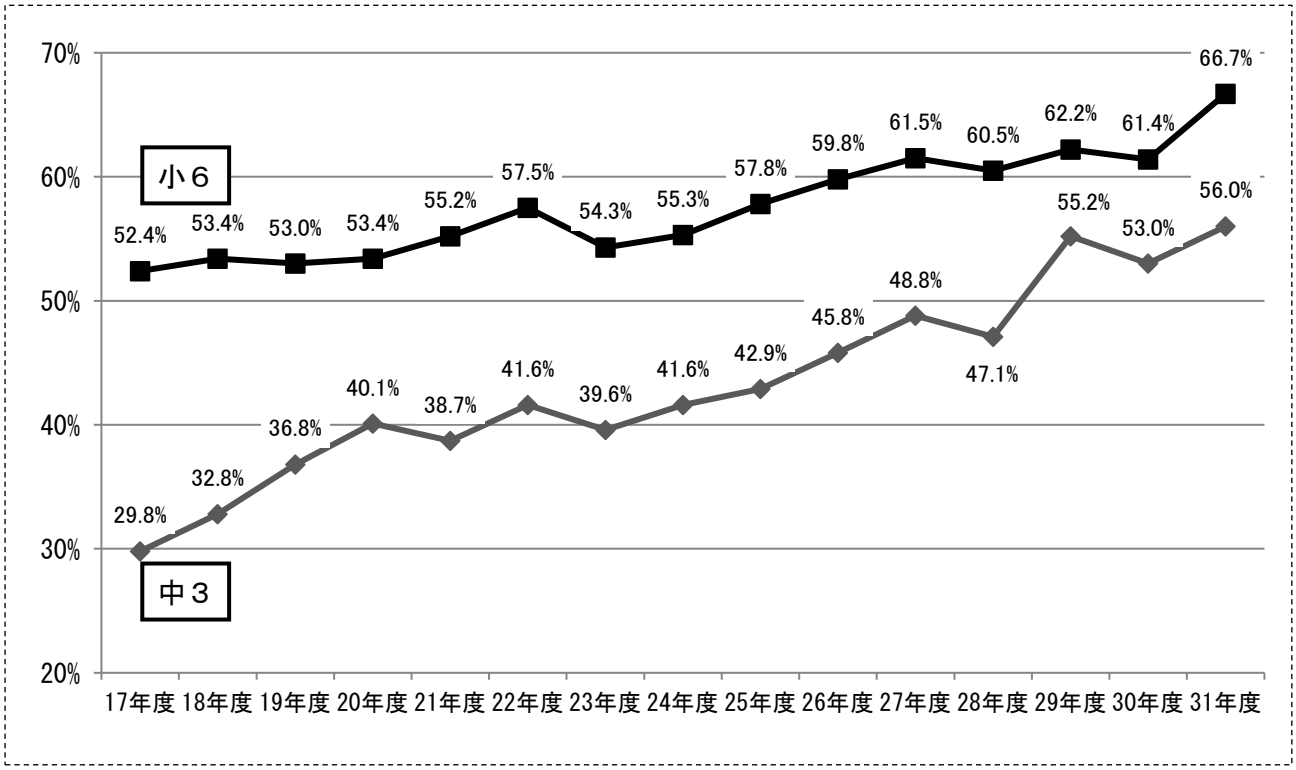
《長期目標１》「墨田区学習状況調査」の意識調査における「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒」の割合を、次のとおり増加させる。

学年	平成２８年度	**平成３１年度**	令和７年度目標
小６	６０.５％	**６６．７％**	７０％
中３	４７.１％	**５６．０％**	６０％

この３年間で、小学校第６学年は６．２ポイント増加し、中学校第３学年は８．９ポイント増加した。

令和７年度に達成を目指す長期目標の達成に向けて、順調に推移していると言える。

（参考）「墨田区学習状況調査」の意識調査において「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒」の割合の推移



《長期目標２》「墨田区学習状況調査」における「Ｄ・Ｅ層（学力低位層）の児童・生徒」の割合を、次のとおり減少させる。

学年	教科	平成２８年度	**平成３１年度**	令和７年度目標
小６	国語	２９.７％	**２９．３％**	２５％
	社会	３８.９％	**３１．５％**	３０％
	算数	４３.３％	**３２．７％**	２５％
	理科	４２.３％	**３５．５％**	３０％
中３	国語	３１.５％	**３２．２％**	２５％
	社会	５０.３％	**４８．４％**	３５％
	数学	４２.７％	**３８．９％**	３０％
	理科	５７.５％	**４９．１％**	３５％
	英語	４０.２％	**３６．７％**	３０％

小学校第６学年の４教科のＤ・Ｅ層の割合の平均値が６．３ポイント減少し、中学校第３学年の５教科のＤ・Ｅ層の割合の平均値が３．４ポイント減少した。

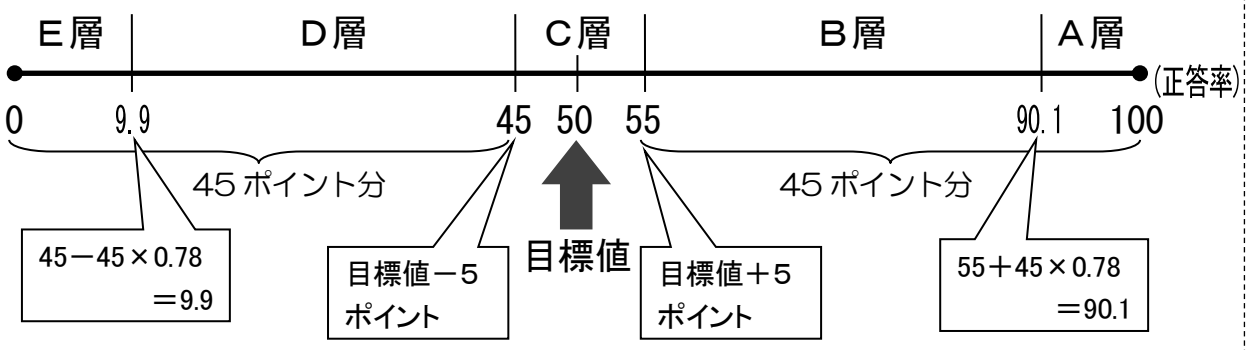
小学校第６学年の社会・算数・理科、中学校第３学年の英語については、令和７年度までの長期目標の達成に向けて、順調に推移しているといえる。その他の教科についても、長期目標の達成に向けて、Ｄ・Ｅ層の減少傾向を更に促進する必要がある。

（参考）　「墨田区学習状況調査」における各層の定義

本調査では、児童・生徒が、学習指導要領に示された内容について標準的な時間を掛けて学んだ場合、調査問題を作成している業者が、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合を「目標値」として定めている。

この目標値に対して、「－５ポイント以上＋５ポイント未満」であった場合、目標値と同程度とみなしC層とする。また、C層より正答率が高い層を、７８パーセントと２２パーセントに分け、C層に近い側をB層、もう一方をA層とする。また、D層、E層についても同様の考えとする。

（例）目標値が５０％の場合



(2) 短期目標

前計画の期間である平成２８年度から平成３０年度までの３年間の取組の成果を、平成３１年度「墨田区学習状況調査」（４月に実施）により検証した。

《短期目標１》「墨田区学習状況調査」における「Ｄ・Ｅ層（学力低位層）の児童・生徒」の割合を、次のとおり減少させる。

（単位：％）

学年	教科	２８年度	**３１年度**	短期目標
小６	国語	29.7	**★◎29.3**	30
	社会	38.9	**★◎31.5**	35
	算数	43.3	**◎32.7**	30
	理科	42.3	**◎35.5**	35
小５	国語	31.2	**★◎24.0**	30
	社会	39.7	**◎31.5**	30
	算数	35.0	**◎31.0**	30
	理科	34.4	**◎33.2**	30
小４	国語	30.9	**★◎27.0**	30
	社会	48.6	**◎30.2**	25
	算数	32.7	**★◎23.9**	25
	理科	34.7	**◎29.6**	25
小３	国語	27.7	**★◎20.3**	25
	算数	33.4	**★◎20.1**	25
小２	国語	21.8	**◎20.9**	15
	算数	20.4	**◎17.0**	15

学年	教科	２８年度	**３１年度**	短期目標
中３	国語	31.5	**32.2**	30
	社会	50.3	**◎48.4**	45
	数学	42.7	**◎38.9**	35
	理科	57.5	**◎49.1**	45
	英語	40.2	**◎36.7**	35
中２	国語	25.5	**★ 29.1**	30
	社会	51.1	**★◎39.5**	40
	数学	40.2	**43.5**	35
	理科	61.5	**◎46.9**	40
	英語	43.5	**◎37.9**	35
中１	国語	30.0	**★◎27.7**	30
	社会	55.0	**◎39.0**	35
	数学	37.9	**◎35.2**	35
	理科	46.4	**◎41.6**	40

※　★は短期目標を達成した教科、◎は３年間でＤ・Ｅ層の割合が減少した教科を、それぞれ示している。

Ｄ・Ｅ層に属する児童・生徒の割合に関する短期目標の達成状況やこの３年間のＤ・Ｅ層の割合の推移は、次のとおりである。

短期目標	達成した		達成しなかった		合計
Ｄ・Ｅ層の割合	減少した	減少しなかった	減少した	減少しなかった	
小学校	７	０	９	０	１６
中学校	２	１	９	２	１４

各学年・教科の短期目標をやや達成困難な値に設定したため、短期目標を達成した教科数は少なかったが、小学校は全ての学年・教科で、中学校は１４教科中１１教科でＤ・Ｅ層の割合が減少した。

《短期目標２》「墨田区学習状況調査」における国語科の「読む能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の区平均正答率を全国平均正答率以上とする。　（単位：％）

	読む能力		書く能力		言語についての知識・理解・技能	
	墨田区	全国	**墨田区**	全国	**墨田区**	全国
中3	**★６３．７**	６２.４	**５９．７**	６４.１	**★７１．０**	７０.６
中2	**★５３．５**	５１.９	**★７１．４**	６８.１	**★７４．４**	７４.１
中1	**★６９．８**	６７.８	**★７１．１**	７０.９	**６４．６**	６５.５
小6	**★６６．４**	６３.５	**★６３．３**	６０.３	**★７４．５**	７４.１
小5	**★７３．８**	６９.４	**★６１．９**	６０.９	**★７９．７**	７８.５
小4	**★７１．６**	６７.９	**★６１．２**	５６.２	**★７４．０**	７０.６
小3	**★６８．９**	６０.５	**★７０．４**	６６.８	**★８３．４**	８０.９
小2	**★７２．５**	６８.８	**★６１．６**	５６.５	**９４．７**	９５.５

※　★は、短期目標を達成した観点（２４観点中２１観点）を示している。

（参考）「墨田区学習状況調査」における、国語科の「読む能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の区平均正答率と全国平均正答率の差の推移

	読む能力		書く能力		言語についての知識・理解・技能	
	２８年度	**３１年度**	２８年度	**３１年度**	２８年度	**３１年度**
中3	－１.２	**◎＋１．３**	－０.７	**－４．４**	－２.８	**◎＋０．４**
中2	＋０.７	**◎＋１．６**	＋３.６	**＋３．３**	＋０.５	**＋０．３**
中1	＋１.１	**◎＋２．０**	＋３.０	**＋０．２**	－０.５	**－０．９**
小6	－２.４	**◎＋２．９**	－４.２	**◎＋３．０**	－２.３	**◎＋０．４**
小5	＋０.９	**◎＋４．４**	－０.９	**◎＋１．０**	－１.２	**◎＋１．２**
小4	＋１.５	**◎＋３．７**	－２.６	**◎＋５．０**	－０.５	**◎＋３．４**
小3	＋１.９	**◎＋８．４**	＋０.９	**◎＋３．６**	＋０.６	**◎＋２．５**
小2	＋０.５	**◎＋３．７**	－２.９	**◎＋５．１**	－１.０	**◎－０．８**

※　◎は、全国平均正答率との差が上昇した観点（２４観点中１９観点）を示している。

２４観点中２１観点が、全国平均正答率以上になった。また、２４観点中１９観点は、区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値が上昇した。

《短期目標３》「墨田区学習状況調査」において、各教科の「思考力・判断力・表現力」の区平均正答率を全国平均値以上とする。　（単位：％）

	国語		社会		算数・数学		理科		英語	
	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国
中３	★63.9	63.2	43.7	45.3	★37.8	35.7	40.9	44.0	★56.4	55.1
中２	★62.8	61.1	55.1	55.6	38.8	41.0	65.0	65.3	★54.2	53.5
中１	★55.9	54.0	69.4	69.9	71.9	73.2	50.0	57.7		
小６	★30.3	24.7	★65.6	64.8	★46.2	42.3	★45.0	43.1		
小５	★66.9	64.5	★76.0	72.7	★58.3	55.0	53.3	53.7		
小４	★60.6	58.1	★55.6	50.8	★61.9	58.4	★52.3	49.9		
小３	★74.0	69.1			★73.7	68.4				
小２	★42.3	38.6			★71.0	68.9				

※　★は、短期目標を達成した観点（３０教科中２１教科）を示している。

（参考）「墨田区学習状況調査」中学校の社会及び理科の「思考力・判断力・表現力」について、区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値の推移

	社会		理科	
	２８年度	３１年度	２８年度	３１年度
中３	－4.2	◎ －１．６	－2.6	－３．１
中２	－2.9	◎ －０．５	－3.0	◎ －０．３
中１	－3.7	◎ －０．５	－6.8	－７．７

※　◎は、区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値が上昇した教科を示している。

小学校については、全１６教科中１５教科が全国平均正答率以上になった。

中学校社会については、区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値が上昇した。

中学校理科については、第１学年及び第３学年は、区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値はほぼ変わらず、第２学年は上昇した。

２　組織的な学力向上の取組の検証

学校は、校長の方針に基づき、学力向上の取組内容や取組方法を定め、学校全体で取組を進めてきた。例えば、ふりかえりシート等を用いて当該学年に学習した内容をふりかえる「学習ふりかえり期間」を学期末に設け、全ての学校が取り組んでいる。

次の表は、学力向上の取組方法と墨田区学習状況調査結果の平均正答率の関係をまとめたものである。

取組方法	小学校		中学校	
	学校数	平均正答率	学校数	平均正答率
校長の方針に基づき、学力向上委員会等の組織が実施方法を決めて取り組んだ。	**１７校**	**７２．２％**	**５校**	**６０．８％**
学年や教科の教員が実施方法を決めて取り組んだ。	５校	７０.４％	２校	５９.９％
管理職が実施方法を指示し、指示された方法で取り組んだ。	３校	６９.１％	３校	５９.９％

※　平均正答率は、平成３１年度「墨田区学習状況調査」における全ての学年・教科の正答率の平均値である。

校長の方針に基づき、学力向上委員会等の組織が実施方法を決めて取り組んだ学校の平均正答率は、学年や教科の教員が実施方法を決めて取り組んだ学校や、管理職が指示して取り組んだ学校よりも、平均正答率が高かった。

また、学力向上委員会等を組織している学校から聞き取り調査を行った結果、次のことが分かった。

- **学力向上委員会を定期的に開催し、取組の状況を確認し合う。**
- **学力向上委員会に副校長が参加する。副校長は、校長の方針に基づいた取組であるかや、取組が順調に進んでいるかを確かめ、適宜指導・助言を行っている。**
- **効果的な取組を、職員会議や朝打合せ等で紹介し、全ての教員で共有する。**
- **学力向上委員会が、役割分担（だれが）、期間（いつ）、内容（何を）、実施方法（どのように）を決め、進捗確認も行い、学校全体で取り組んでいる。**

上記の工夫を行うことで、学力向上委員会等を効果的に機能させている学校の平均正答率がより高いことが分かった。

校長が明確かつ具体的な方針を示し、教職員の委員会組織等を活用して役割分担を明確にし、全ての教員が協力し合うことで組織的に取組を進めることが、児童・生徒の学力向上につながるといえる。

３　基本方針に基づいた取組の検証

前計画の４つの基本方針は、次のとおりである。

(1) 児童・生徒の学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。 (2) 学習内容の定着に課題のある児童・生徒をフォローし、知識の定着を図る。 (3) 基礎・基本を中心にした確かな学力を身に付けさせるため、教員の授業力向上に取り組む。 (4) 発展的学習の機会を提供するための工夫に取り組む。

上記の基本方針に基づいた取組の成果及び課題は、次のとおりである。

(1) 児童・生徒の学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。

ア　児童・生徒の学習意欲の向上

（取組）

（重点的な取組１）宿題をはじめとする家庭等での学習 **（重点的な取組３）児童・生徒の「学習意欲の向上」のための取組**

学校では、日々の授業改善や放課後学習、宿題等を通じて、授業以外の時間に学習する習慣の確立を図ってきた。また、平成２７年度から、東京未来大学とすみだ教育研究所が、学習意欲に関する共同研究を行ってきた。

（成果）

意識調査を活用した、学習意欲測定尺度を開発した。また、「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒」の割合（小６は 60.5%[28 年度]→66.7%[31 年度]、中３は 47.1%[28 年度]→56.0%[31 年度]）や、「家で週４～５日以上勉強する」と回答した児童・生徒の割合（小６は 66.8%[28 年度]→72.4%[31 年度]、中３は 47.4%[28 年度]→59.1%[31 年度]）は増加している。

なお、学校からの聞き取り調査の結果、「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒」の割合が高い学校は、次の工夫をしていることが分かった。

- 宿題の量や内容を、教科の間で調整している。
- Ｄ・Ｅ層に属する児童・生徒であっても、宿題に取り組めるように、個に応じた宿題を出している。
- 宿題がすぐに終わってしまう児童・生徒のために、「チャレンジ問題」として、やや難しい問題を出し、児童・生徒の学習意欲を喚起している。

（課題）

学習意欲向上に効果のあった取組を、学校全体で実施することができるような工夫が必要である。「家で週４～５日以上勉強する」児童・生徒の割合は全国平均の割合よりは低い（31 年度の全国平均は、小６：78.0%, 中３：68.1%）。

また、家庭でほとんど勉強しない児童・生徒が存在する（小６：11.5%, 中３：15.0%）。

イ　家庭と地域の教育力の充実

（取組）

教育委員会報「いきいき」等を活用して、保護者に対して、学力向上によって子どもの将来の進路選択の幅が広がり、夢や希望の実現につながることなどを示し、学力向上の重要性を伝え、啓発してきた。

また、教育委員会は、小・中学校のＰＴＡ会長会で、各ＰＴＡ会長に対して、子どもたちが学習に取り組んでいることを認め励ますなどの、学習意欲を向上させるための働きかけの重要性を伝えてきた。

（成果）

墨田区学習状況調査の意識調査において、家庭での学習では、「家で週４～５日以上勉強する」と回答した児童・生徒の割合が増加している（小６は 66.8%[28 年度]→72.4%[31 年度]、中３は 47.4%[28 年度]→59.1%[31 年度]）。

（課題）

保護者や地域の方々に対して、様々な方法で周知・啓発を行い、子どもたちの学習意欲を更に高められるようにする必要がある。

⑵ 学習内容の定着に課題のある児童・生徒をフォローし、知識の定着を図る。

ア　放課後等の学習支援

（取組）　**（重点的な取組１）授業を補完する放課後学習**

全ての小・中学校が、放課後の補習を実施している。

（成果）

小学校は全ての学年・教科で、中学校は全１４教科中１１教科で、Ｄ・Ｅ層の児童・生徒の割合が減少した。

また、Ｄ・Ｅ層の児童・生徒を大きく減少させている学校は、授業や放課後学習において、次の工夫をしていることが分かった。

- 授業の中で目的に応じて、ペアやグループで話し合う時間を確保し、グループの中で、習熟の程度が異なる児童・生徒同士が学び合う場面や、十分に理解できている児童・生徒が、理解できていない児童・生徒に対して教える場面をつくっている。
- 授業の終わりに、ふりかえりシート等を使って、学習内容を定着させている。
- 教員とすみだスクールサポートティーチャー（すみだＳＳＴ）が連携して、個々の児童・生徒の課題を共有し、課題に応じた放課後学習を行っている。すみだＳＳＴは、放課後学習における児童・生徒の様子を、教員に伝えている。

（課題）

Ｄ・Ｅ層の児童・生徒の減少傾向が、学校によって二極化しており、Ｄ・Ｅ層があまり減少していない学校に対して、重点的に支援を行う必要がある。

イ　学習支援のための地域人材の活用

（取組）

学校は、すみだＳＳＴ等の地域人材を活用して、放課後の補習を行っている。

（成果）

教育委員会は、学校に対して、必要な人材を派遣することができた。また、全ての学校において、放課後の補習が行われるようになった。

（課題）

放課後の補習を受ける児童・生徒の学習状況について、教員（学級担任・教科担任）とすみだＳＳＴが情報を共有し、より効果的な活用を進める必要がある。

⑶ 基礎･基本を中心にした確かな学力を身に付けさせるため､教員の授業力向上に取り組む。

ア　教員の授業力の向上

（取組）

（重点的な取組１）分かる授業
（重点的な取組２）ＩＣＴを活用した「効率的・効果的な」授業等

教員の授業力向上のために、教育委員会は、職層や経験に応じた研修や様々な教育課題（ＩＣＴに関する研修や英語の指導に関する研修等）に対応した研修を実施した。学校は、教育研究奨励事業によって、校内研修の充実を図るとともに、教材研究や授業を支援するための環境整備（ＩＣＴ）等を行った。

（成果）

墨田区学習状況調査における区平均正答率と全国平均正答率を比較したときの値については、この３年間で大きく上昇した。また、下の表のとおり、整備されたＩＣＴを、授業等で活用する頻度が上昇した。

● 平成３０年度「学校ＩＣＴ活用状況調査」におけるＩＣＴの活用頻度
（区内の教員を対象としたアンケート調査結果）

	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	年に数回	活用していない
タブレット端末	53.1% (48.9%)	27.5% (29.4%)	11.7% (12.9%)	4.8% (4.4%)	2.9% (4.4%)
実物投影機 （小学校のみ）	62.8% (62.3%)	12.0% (14.4%)	6.3% (5.0%)	5.3% (3.8%)	13.7% (14.4%)

※（　　）内は、平成２９年度の値である。全ての学校にＩＣＴが整備されたのは、平成２８年度末である。

なお、次ページのように、ＩＣＴに収納されている「指導のポイント」を各学校が活用したことで、墨田区学習状況調査の平均正答率が上昇したことから、ＩＣＴの活用が学力向上につながっているといえる。

● 児童・生徒がＩＣＴを用いて学力向上につながった事例

教育委員会では、小１算数「とけい」の「時刻をよむ」ことに関する指導のポイント（プレゼンテーションソフト）を作成し、学校で活用したことの効果を検証した。

墨田区学習状況調査では、毎年、時刻を答える問題が出題されている（小２算数）。平成３１年度の問題は、次のとおりである。

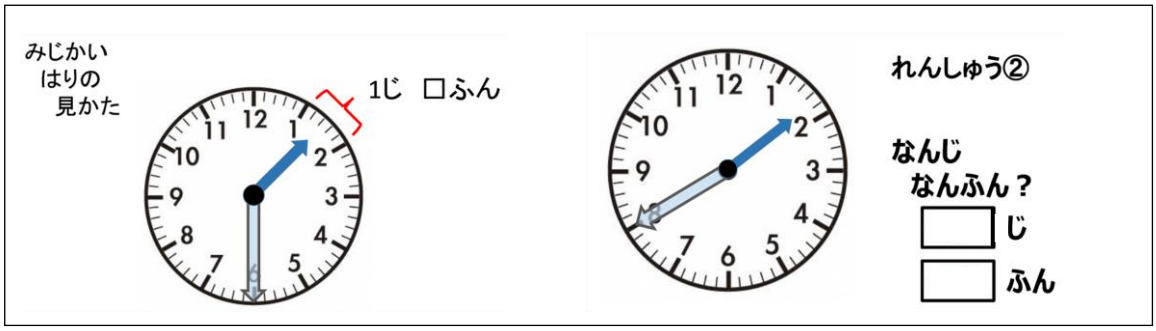
まさきさんが　こうえんを　出て　いえに　ついたのは、４じ２０ぷんでした。この　ときの　とけいは　どれですか。　（※４つの時計の中から、一つを選ぶ。）

また、時刻を答える問題の区平均正答率と全国平均正答率の推移は、次のとおりであり、時刻を答える問題の平均正答率は、小２算数全体の平均正答率よりも伸び具合が大きいことが分かる。

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度
時刻を答える問題の平均正答率	－0.2	＋0.8	＋4.1	＋3.9
小２算数の平均正答率	－0.6	0.0	＋2.8	＋1.1

以上のことから、指導のポイントの活用の効果がみられたと考えられる。

（参考）指導のポイントをまとめたプレゼンテーション画面の一部



さらに、個々の教員の授業力によらず、学校全体で学力向上の取組を定め、墨田区学習状況調査の結果が大きく上昇している学校がある。

学校からの聞き取り調査の結果、授業において、次のような工夫をしていることが、墨田区学習状況調査の結果が大きく上昇していることが分かった。

- 児童・生徒が授業を受けるときの規律だけでなく、学校全体で、教員の授業スタイルを定め、全ての教員が取り組んでいる。
- 「ノートの取り方」を学級に掲示し、「ノートの取り方」に基づいた児童・生徒へのノート指導を行っている。

（課題）

墨田区学習状況調査における「学校の平均正答率と全国平均正答率を比較した値」や「Ｄ・Ｅ層の児童・生徒の割合」については、学校によって二極化している。

イ　学校における家庭学習環境の整備

（取組）

学校は、授業で学習した内容が定着するように宿題を出している。教育委員会は、授業の内容に関連のある宿題を出すよう、指導・助言を行っている。

（成果）

墨田区学習状況調査の意識調査において、「家で週４～５日以上勉強する」と回答した児童・生徒の割合が増加した（小６は66.8％[28年度]→72.4％[31年度]、中３は47.4％[28年度]→59.1％[31年度]）。※ 再掲（１０ページ）

（課題）

「家で週４～５日以上勉強する」と回答した児童・生徒の割合について、本区は全国の平均よりも低い状況である（小６：78.0％, 中３：68.1％）。また、家庭でほとんど勉強しない児童・生徒が存在する（小６：11.5％, 中３：15.0％）。

ウ　授業改善（ＰＤＣＡサイクル）の徹底

（取組）

学校は、墨田区学習状況調査結果等（Check）をもとに、今後の学力向上の取組（Act）を定め、学力向上を図るための全体計画や学力向上プランに具体的な取組の改善案（Plan）を明示し、計画に基づいた取組（Do）を進めている。教育委員会は、「学力向上を図るための全体計画」や「学力向上プラン」の様式を定めた。

（成果）

墨田区学習状況調査を軸としたＰＤＣＡサイクルの流れが明確になった。

（課題）

計画に基づいた取組の進捗状況については、学校によって違いがみられる。教育委員会が適宜学校訪問をし、管理職や学力向上担当の教員に対する指導・助言・支援を行う必要がある。

エ　児童・生徒の状況把握

（取組）

学校は、墨田区学習状況調査結果から、児童・生徒の学習状況を把握し、その状況を踏まえて「学力向上を図るための全体計画」を作成した。教員は、担当する学級や教科の取組の方向性を定めた「学力向上プラン」を作成した。

（成果）

「学力向上を図るための全体計画」や「学力向上プラン」を全ての学校・教員が作成し、個々の教員が担当する学級・教科における学力向上の取組の具体化が図られた。

（課題）

学力向上委員会等の組織を活用して、学力向上プランに基づいた取組の進捗管理を行うことで、学力向上の取組を確実に実行していく必要がある。

(4) 発展的学習の機会を提供するための工夫に取り組む。

ア　発展的学習を目指す授業展開

（取組）

更に意欲的に学習に取り組む児童・生徒の学力をより伸ばすために、小・中学校では「習熟度別指導ガイドライン」（算数・数学）、「少人数・習熟度別指導ガイドライン」（中学校英語）に基づいて、「発展的な指導」などの個に応じた指導の充実を図っている。

（成果）

墨田区学習状況調査では、「思考力・判断力・表現力」を問う問題について、小学校を中心に、全国平均正答率以上の学年・教科数が増加した（７ページ参照）。

（課題）

下の表のとおり、Ａ層の割合が増加した学年・教科の数は半分強である。「より伸ばす指導」にも力点を置き、更なる学力向上や学習意欲の向上を目指す必要がある。

● 「墨田区学習状況調査」における平成２８年度と平成３１年度のＡ層の割合（単位：％）

	国語		社会		算数・数学		理科		英語	
	28 年度	31 年度	28 年度	31 年度	28 年度	31 年度	28 年度	31 年度	28 年度	31 年度
中3	3.6	◎ 6.5	0.6	◎ 1.7	7.1	◎10.4	1.8	◎ 3.8	4.6	◎ 8.2
中2	6.1	5.3	0.8	◎ 7.8	4.9	2.8	0.6	◎ 1.9	9.7	8.9
中1	3.3	◎ 4.6	1.0	◎ 4.8	9.8	◎11.6	1.4	◎ 1.6	—	—
小6	9.1	6.8	11.0	9.0	9.1	6.6	1.8	1.8	—	—
小5	8.9	◎14.3	3.4	◎ 4.7	5.1	◎ 7.9	5.0	3.3	—	—
小4	13.1	8.5	5.4	◎ 9.1	7.0	6.0	4.0	◎ 4.4	—	—
小3	7.3	◎18.0	—	—	8.1	◎ 8.2	—	—	—	—
小2	17.2	9.3	—	—	20.2	◎21.0	—	—	—	—

※　◎は、Ａ層の割合が増加した教科（３０教科中１９教科）を示している。

Ａ層の割合を増加させている学校の工夫の一つに、児童・生徒に対して、自分の考えを文章で表現するといった「思考力・判断力・表現力等」をみる問題を、テストで出題するなどの取組が挙げられる。

次ページの問題は、区内の中学校において、定期考査で出題した思考力・判断力・表現力等をみる問題の例（理科）である。

● 思考力・判断力・表現力等をみる問題の例（中学校第１学年理科）

サクラの葉の表側と裏側の気孔の数を調べると、単位面積当たりの数は、裏側の方が表側より多いです。気孔では、水が水蒸気になって出ていく「蒸散」が起こります。

葉の数や大きさがほぼ同じ２本のサクラの枝Ａ，Ｂを用意し、Ａは葉の表側にワセリンをぬり、Ｂは葉の裏側にワセリンをぬりました。Ａ，Ｂを、同じ量の水が入った試験管にそれぞれ入れ、水面に油を１滴たらし、しばらく置いたところ、水の量が次の表のように変化しました。

枝Ａを入れた試験管の水の量	枝Ｂを入れた試験管の水の量
５．２ｍｌ減った	１．６ｍｌ減った

「枝Ａを入れた試験管の水が減った量」は「枝Ｂを入れた試験管の水が減った量」よりも多い理由を、「気孔の数」と「蒸散」という用語を使って説明しなさい。

（正答）　枝Ａは枝Ｂよりも、ワセリンでふさがれる気孔の数が少ないので、枝Ａの方が枝Ｂよりも多くの気孔で蒸散が行われて水が水蒸気になって出ていくから。

イ　企業等との連携・協力

（取組）

「学校支援ネットワーク事業」を活用し、各学校に対して、日常の授業と連動した「出前授業」を提供している。

（成果）

出前授業のメニューの数が３２５あり、区内の学校において、全４７６回の出前授業を実施した。

（課題）

出前授業の実施が、児童・生徒の学力向上や学習意欲の向上に、十分つながっていない。

ウ　各校における取組支援

（取組）

新しい学習指導要領の趣旨理解のために、小・中学校の教員を対象として、次期学習指導要領説明会を開催し、教科ごとに学習指導要領のポイントを周知した。

また、学習内容の定着のために、ふりかえりシート等の教材を学校へ提供するとともに、墨田区学習状況調査結果から明らかになった課題のある学習内容に対して、指導のポイントや教育研究所ニュース（新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた指導のあり方や課題のある学習内容に関する指導方法等をまとめたもの）を、学校へ提供した。

（成果）

学校は、新しい学習指導要領に関する説明会の内容を踏まえて、校内研修を実施し、主体的・対話的で深い学びに関わる指導内容・方法の研究を行った。

（課題）

学校訪問等により、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた指導・助言を継続する。また、教材や指導のポイント等の更なる活用を図る必要がある。

エ　幼保小中連携の強化

（取組）

平成２９年度に「墨田区幼保小中一貫教育推進計画」を改定し、平成３０年度から、全ての中学校区ブロックにおいて、「中学校卒業までを見通した学習指導」を行うことを規定した。

（成果）

全ての中学校区ブロックにおいて、異なる校種の教員等が一緒に授業を参観し、指導方法や学習内容の系統性に関する協議を行い、相互理解を図っている。また、全ての中学校区ブロックにおいて、園児が英語に触れ・慣れる活動（英語活動体験）を行った。

（課題）

中学校の教員が小学校へ行って出前授業を行うことや、小・中学校の教員が一緒に授業を行うことで、各中学校区ブロックの学習指導にかかわる幼保小中一貫教育の取組を更に活性化する必要がある。

４　成果及び課題（総括）

児童・生徒の学習内容の確実な定着のための取組を推進してきたことで、墨田区の児童・生徒の学力は確実に上昇してきている。その主な要因は、学校が学力向上に対する取組を組織的に実施していることであると考える。

校長が教職員に対して明確な方針を示し、全ての教職員が校長の方針に基づいて学力向上の取組を定め、進捗状況を確認しながら組織として確実に取組が進行していく、このような取組が全ての学校で実施されることが重要である。また、前計画の長期目標や短期目標から、次の成果及び課題が明らかになった。

・　《長期目標１》の達成状況から、「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒」の割合が増加してきているが、家庭学習をほとんどしない児童・生徒が存在する。

　長期目標の達成を目指すには、全ての児童・生徒自らが進んで学習に取り組む習慣を身に付けさせるための具体的な取組を明示し、推進する必要がある。

・　《長期目標２》及び《短期目標１》の達成状況から、この３年間で、全般的には学力低位層であるＤ・Ｅ層の割合が減少している。

　Ｄ・Ｅ層の割合に関する短期目標を達成していない学年・教科（特に、理科・社会科）があることから、学力低位層の減少に関する取組を引き続き推進する必要がある。

・　《短期目標３》の達成状況から、多くの学年・教科において「思考力・判断力・表現力」に関する問題の区平均正答率が、全国平均正答率以上になっている。

　児童・生徒同士が思考・判断したことを表現し合う活動を更に充実していくことや、更なる学力の伸長を図るための取組を推進する必要がある。

Ⅲ　墨田区学力向上新３か年計画（第２次）

１　基本方針

すみだ教育指針では、子どもたちの「生きる力」（知・徳・体のバランスの取れた力）を育むことを目指し、変化の激しいこれからの社会を生きるためには、「確かな学力（知）」「豊かな人間性（徳）」「健康・体力（体）」をバランスよく育てることが大切であるとしている。

前計画では、校長が教職員に対して明確な方針を示し、全ての教職員が校長の方針に基づいた学力向上の取組を推進したことで、成果を上げることができた。

今後、「基礎的・基本的な知識及び技能の定着」や「児童・生徒の学習意欲の向上」とともに、「思考力・判断力・表現力等の育成」についても更に充実を図り、更なる学力向上を目指していく必要がある。また、子どもたちの学習意欲が高められるよう、家庭・地域は、子どもたちへの働きかけを行う。様々な家庭の事情がある場合は、家庭における取組を、学校が支援していく。

以上のことから、本計画の基本方針を次のとおりとし、教育委員会は、児童・生徒の学力向上のための環境を整備する。

「墨田区学力向上新３か年計画（第２次）」における基本方針

児童・生徒に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に定着させ、思考力・判断力・表現力等を育み、自ら進んで学びに向かう力を養うために、次のア～ウの方針に基づき、学力向上を推進する。

ア　全ての小・中学校は、組織的に学力向上に取り組む。

イ　全ての教員は、よりよい授業の実現を目指す。

ウ　学校や教育委員会は、家庭・地域と連携して、更なる学力向上を図る。

２　学校・家庭・地域における取組

前記の基本方針に基づき、学校・家庭・地域における取組を、以下に示す。

なお、基本方針にある、「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着」「思考力・判断力・表現力等の育成」「自ら進んで学びに向かう力を養うこと」については、特に関連のあるものに、次のマークを付している。

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力
基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着	思考力・判断力・表現力等の育成	自ら進んで学びに向かう力を養うこと

(1) 学校において

学校では、以下に示す取組方針をもとに、自校の課題に応じた学力向上の取組を進めていく。

① 学力向上の取組を組織的に行う　知識・技能　思考力・判断力・表現力等　学びに向かう力

前計画において一定の成果が挙げられた要因の一つに、学校全体でカリキュラム・マネジメントを確立し、学力向上の取組を組織的に行ったことが挙げられる。

校長は、各種学力調査の分析結果や児童・生徒の普段の様子をもとに「学力向上を図るための全体計画」を作成し、教職員に対して明確な方針を示す。個々の教員は、校長の方針を理解し※1、担当の学級・教科の児童・生徒の状況を踏まえて「学力向上プラン」を作成する。また、「学力向上プラン」に基づいた取組が確実に実行されるよう、学力向上委員会や学年会などの組織を活用して進捗管理をすることで、計画に沿った具体的な取組を確実に行っていく。

※１　「学校全体の学力向上に効果を上げている学校の共通の特徴」に、「管理職が明確なビジョンや方針を示し共通理解を図っている」ことが挙げられている。

出典：国立大学法人お茶の水女子大学　文部科学省委託研究「平成２５年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」　平成２６年３月

（「平成２５年度全国学力・学習状況調査」では、通常の児童・生徒の学力及び意識の状況をみる調査や学校質問紙調査だけでなく、保護者や教育委員会を対象とした「きめ細かい調査」を実施した。）

② 理解したことや身に付けたことを、確実に定着させる　知識・技能

「全国学力・学習状況調査」（文部科学省：４月に実施　小６・中３対象）や、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会：７月に実施　小５・中２対象）では、一定量の文章を読み解いて問題を解決する力をみる問題が多く出題されている。今後は、児童・生徒が語彙力や文章を読む力・書く力を身に付けることが求められている。そこで、国語の授業では語彙力や文章を読む力・書く力を確実に身に付け、他の教科の授業では、国語科で身に付けた力を生かせるような授業を行う。

また、児童・生徒が思考・判断したことを表現するためには、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付ける必要がある。知識及び技能の確実な習得のためには、児童・生徒が教わって理解するだけでなく、授業の終末に「ふりかえりシート」などを用いて、自分の力で問題を解き、教わったことを定着させる取組が重要である。

さらに、宿題、単元末、学期末（学習ふりかえり期間）など、ふりかえりの機会を繰り返し設け、更なる定着を図る。

なお、基礎的・基本的な知識及び技能が十分身に付いていない児童・生徒が、「分かる」「できる」ようにするために、授業中の机間指導や放課後・長期休業中の補習等の機会を活用して、個別に指導を行う。基礎的・基本的な知識及び技能が身に付いている児童・生徒に対しては、発展的な課題を与え、更なる学力向上を目指していく。

③ 考える力や表現する力を育む　思考力・判断力・表現力等

新しい学習指導要領では、各教科等において、理解していることやできることをどのように活用するかが求められている。

授業では、児童・生徒が自分の考えをもち、互いの考えを出し合って話し合ったり、集団の中で教え合ったりする活動を充実させていく。他者の考えを聞いて、自分では思いつかなかった考えに触れて考えを見直し、自分の考えをよりよいものとして、他者へ分かりやすく伝えられる児童・生徒を育成していく。

教員がこのような授業を展開できるようにするために、教育委員会は、職層・経験に応じた研修や今日的な教育課題に関する研修を開催する。学校は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた校内研修を実施する。個々の教員は、区教育研究会や都の認定団体の研究会等の機会を生かして、資質向上を図っていく。

また、「図書館を使った調べる学習コンクール」により、授業で身に付けたことや日常生活等で疑問に感じたことについて、学校図書館や区立図書館等を活用して調べ学習を行い、思考力・判断力・表現力等を育んでいく。

④ 夢や希望をもち、実現に向けて努力し続ける児童・生徒を育成する　学びに向かう力

学力向上により、児童・生徒の将来の進路選択の可能性は広がっていく。学習に対して粘り強く努力し続けるには、教科等を学ぶ意義を理解し、学びを今後の人生や社会に生かそうとする姿勢を持ち続けることが重要である。

そのために、教員は児童・生徒に対して、将来の夢や希望について問いかけ、なぜその教科の学習をするのか、なぜその単元について学ぶのかを明確に伝えていく。努力をしてもすぐに「分かる」「できる」ようにはならないが、教員が随時、努力の過程を認め励まし、努力し続ける児童・生徒を育成していく。

また、読書活動を推進し、児童・生徒が、様々な人の生き方や価値観に触れ、困難なことを前向きに捉え、乗り越える姿勢を育んでいく。

⑤ 児童・生徒の学習意欲を向上させる　学びに向かう力

すみだ教育研究所は、これまで、東京未来大学と学習意欲に関する共同研究を行ってきた。共同研究により、「周囲に認められ、支えられている（他者受容感）」「自分のことを好きだ・大切だと思える気持ちの強さ（自己肯定感）」「自分はできるという期待と自信の強さ（自己効力感）」が「学習や思考を楽しむ気持ちや好奇心による動機づけ（内発的動機づけ）」を高め、学習意欲を喚起し、学習行動につながっていくことが分かった。

学校は、意識調査等から、個々の児童・生徒の学習意欲に関わる心理的要素の状態を把握し、児童・生徒の学習習慣の確立や学習意欲の向上を図る。

⑥ 児童・生徒の学習習慣を確立する　知識・技能　思考力・判断力・表現力等　学びに向かう力

家庭における取組については、様々な家庭の事情を考慮して実施する必要がある。学校においては、全ての教員が、自校の児童・生徒を認め、励ますなどの働きかけを行い、児童・生徒の学習習慣の確立を図る。家庭学習については、授業で学習した内容の定着（復習）のほか、次の授業で扱う学習内容をあらかじめ読んでおくなどの「予習」及び児童・生徒が自ら課題を見付けて行う「自習」に取り組ませることで、将来の夢や希望の実現に向けて努力する児童・生徒を育む。また、児童・生徒に対して、家庭学習の仕方を指導することで、児童・生徒の家庭学習の充実を図っていく。さらに、発展的な課題も活用しながら、Ａ・Ｂ層の更なる学力向上を図る。

(2) 家庭において

学校は、保護者会や学校だより等を活用して、子どもたちが学習することの重要性を保護者に周知していく。教育委員会は、学力向上に関する情報提供や啓発を行う。

① 子どもとのコミュニケーションを大切にする　学びに向かう力

将来、予測困難な社会で生き抜くために、子どもが、確かな学力を身に付けて進路選択の可能性を広げられるよう保護者が支えることが重要である。保護者自身の経験を踏まえながら、夢や希望の実現につながる「学習に取り組むことの大切さ」について話をし、励ますことにより、子どもたちの学習意欲を高めてもらう。

子どもが経験していることや考えていることについて、子どもと保護者が一緒に話をすることは、子どもの学力向上に寄与しているということが、先行研究から明らかになっている。※2

※２　「学力が高い傾向がみられる子どもの保護者の行動や考え方」に、「子どもと、『学校での出来事』『勉強や成績』『将来や進路』『友達とのこと』『社会のできごとやニュース』について話す」ことが挙げられている。

出典：国立大学法人お茶の水女子大学　文部科学省委託研究「平成２５年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」　平成２６年３月

② 物事をあきらめずに挑戦し続ける力を育む　学びに向かう力

先行研究において、幼児期に「物事をあきらめずに挑戦する」といった『がんばる力』が高い子どもほど、小学校低学年で「大人に言われなくても自分から進んで勉強する」などの学習態度や『がんばる力』も引き続き高い傾向にある※3とあるように、集団の中で様々な人と関わり合いながら、目標に向かって頑張る力などのいわゆる「非認知的能力」を高めることが、学力の向上に影響を与えていることが分かっている。

幼児期・児童期の段階から、子どもが努力している過程を認め、すぐに大人が答えを言ってしまうのではなく、なぜそのようになるのかを考えさせることが重要である。

※3　幼児期に「物事をあきらめずに挑戦する」といった『がんばる力』が高い子どもほど、小学校低学年（1～3年）で「大人に言われなくても自分から進んで勉強する」などの学習態度や『がんばる力』も引き続き高い傾向にある。

出典：ベネッセ教育総合研究所　「幼児期から小学４年生の家庭教育調査・縦断調査」同一の子どもについて、７年間（３歳～小学４年生）の変化をとらえる追跡調査結果・第５弾　平成３１年２月

(3) 地域において

学校において、地域人材（すみだＳＳＴ、ゲストティーチャー等）及び地域施設の活用等、地域との連携を図る。

地域の人材や施設等を活用し、教育活動を充実させる

知識・技能　思考力・判断力・表現力等　学びに向かう力

教育委員会は、学校に対して、地域人材や教員を目指す学生等で構成される「すみだスクールサポートティーチャー（すみだＳＳＴ）」を派遣し、授業中や放課後学習の補助を行う。このような放課後の補充的な学習サポートが、家庭の社会経済的背景による影響を縮小して学力向上につながっている※4ことが、先行研究から分かっている。

また、ゲストティーチャーの招へいや学校支援ネットワークを活用した体験学習等を効果的・効率的に実施し、学習指導の更なる充実を図る。

※4　「家庭の社会経済的背景による影響を縮小する学校の取組」に、「放課後を利用した補充的な学習サポート」が挙げられている。

「学力が高い傾向がみられる子どもの保護者の行動や考え方」に、「地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子どもたちの教育に関わってくれる人が多い」が挙げられている。

出典：国立大学法人お茶の水女子大学　文部科学省委託研究「平成２５年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」　平成２６年３月

３　目標

前計画と同様に、「短期目標」と「長期目標」を設定する。

(1) 長期目標

前計画における長期目標を、本計画でも引き継ぐ。

長期目標１：「墨田区学習状況調査」の意識調査における「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒数」の割合を、次のとおり増加させる。

学年	平成３１年度	令和７年度目標
小学６年生	６６.７％	７０％
中学３年生	５６.０％	６０％

長期目標２：「墨田区学習状況調査」における「Ｄ・Ｅ層（学力低位層）の児童・生徒」の割合を、次のとおり減少させる。

学年	教科	平成３１年度	令和７年度目標
小学６年生	国語	２９.３％	２５％
	社会	３１.５％	３０％
	算数	３２.７％	２５％
	理科	３５.５％	３０％
中学３年生	国語	３２.２％	２５％
	社会	４８.４％	３５％
	数学	３８.９％	３０％
	理科	４９.１％	３５％
	英語	３６.７％	３０％

(2) 短期目標

「墨田区学力向上新３か年計画（第２次）」における基本方針では、児童・生徒の学力向上のために、「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「自ら進んで学びに向かう力を養うこと」の実現を目指している。これらの実現状況をみるために、令和４年度までに達成を目指す短期目標を、次のとおり設定する。

短期目標１：「墨田区学習状況調査」における「Ｄ・Ｅ層（学力低位層）の児童・生徒」の割合を、次のとおり減少させる。

○　平成３１年度

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
中３	３２.２％	４８.４％	３８.９％	４９.１％	３６.７％
中２	２９.１％	３９.５％	４３.５％	４６.９％	３７.９％
中１	２７.７％	３９.０％	３５.２％	４１.６％	―
小６	２９.３％	３１.５％	３２.７％	３５.５％	―
小５	２４.０％	３１.５％	３１.０％	３３.２％	―
小４	２７.０％	３０.２％	２３.９％	２９.６％	―
小３	２０.３％	―	２０.１％	―	―
小２	２０.９％	―	１７.０％	―	―

○　令和４年度目標

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
中３	３０％※	４５％※	３５％※	４５％※	３５％※
中２	２５％	３５％	３５％※	４０％※	３５％※
中１	２５％	３５％※	３５％※	４０％※	―
小６	２５％	３０％	３０％※	３５％※	―
小５	２０％	３０％※	３０％※	３０％※	―
小４	２０％	２５％※	２０％	２５％※	―
小３	２０％	―	２０％	―	―
小２	１５％※	―	１５％※	―	―

※は、前計画において短期目標を達成することができなかった学年・教科であり、これらは前計画の値を引き継ぐ。

それ以外の学年・教科は短期目標を達成したため、より高い目標値を設定する。

学力低位層であるＤ・Ｅ層の割合は減少傾向にあるものの、前計画の短期目標を達成することができなかった学年・教科があったことから、本計画においても、Ｄ・Ｅ層の割合の減少に関する目標を設定する。

短期目標２：「全国学力・学習状況調査」における全ての教科の平均正答率を、全国（公立）の平均正答率以上とする（小６・中３）。

○　区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値

・小学校第６学年

教科		平成２８年度	平成３１年度	令和４年度目標
※1 国語	国語Ａ	－1.5ポイント	＋2.2ポイント	＋５ポイント
	国語Ｂ	－1.7ポイント		
※1 算数	算数Ａ	－1.6ポイント	＋2.2ポイント	＋５ポイント
	算数Ｂ	－1.9ポイント		
理科※2		(平成２７年度) －1.8ポイント	(平成３０年度) ＋0.2ポイント	(令和３年度目標) ＋２ポイント

・中学校第３学年

教科		平成２８年度	平成３１年度	令和４年度目標
※1 国語	国語Ａ	－0.2ポイント	－1.2ポイント	０ポイント
	国語Ｂ	＋1.6ポイント		
※1 数学	数学Ａ	－1.2ポイント	－1.2ポイント	０ポイント
	数学Ｂ	－1.0ポイント		
理科※2		(平成２７年度) －2.4ポイント	(平成３０年度) －2.6ポイント	(令和３年度目標) ０ポイント
英語※3			＋1.0ポイント	＋３ポイント

※１　国語及び算数・数学は、平成３０年度まではＡ問題（主として「知識」に関する問題）Ｂ問題（主として「活用」に関する問題）が出題されており、平成３１年度からは、Ａ問題とＢ問題をまとめ、知識と活用を一体的に問う問題となった。

※２　理科は、平成２４年度から実施されており、３年に１回程度実施する予定である。

※３　英語は、平成３１年度から実施されており、３年に１回程度実施する予定である。

知識と活用を一定的に問う「全国学力・学習状況調査」では、全ての小問が「活用に関する問題」となっていることから、「思考力・判断力・表現力等を育む」ことに関する達成状況を、「全国学力・学習状況調査」を軸として目標として設定する。

短期目標３：「墨田区学習状況調査」の意識調査において、「家で、『ほぼ毎日』又は『週に４～５日くらい』勉強する」と回答する児童・生徒の割合を増加させ、「家で、ほとんど勉強しない」と回答する児童・生徒の割合を減少させる。

・「家で、『ほぼ毎日』又は『週に４～５日くらい』勉強する」と回答する児童・生徒の割合

学年	平成２８年度	平成３１年度	令和４年度目標
小６	６６.８％	７２.４％	８０％
中３	４７.４％	５９.１％	６５％

・「家で、ほとんど勉強しない」と回答する児童・生徒の割合

学年	平成２８年度	平成３１年度	令和４年度目標
小６	１５.２％	１１.５％	８％
中３	１９.４％	１５.０％	１０％

（参考）　平成３１年度「墨田区学習状況調査」の意識調査における「勉強する機会（家で週にどのくらいの日数勉強するか）」と「平均正答率」の相関

	ほぼ毎日勉強する	週４～５日勉強する	週２～３日勉強する	ほとんど勉強しない
墨田区立小学校６年生	71.1%	64.7%	58.9%	51.6%
墨田区立中学校３年生	62.2%	59.6%	56.8%	50.8%

自ら進んで学びに向かう力を養うために、家庭での学習習慣の確立に関する意識調査の調査項目について、目標として設定する。

４　基本方針に沿った主な事業

(1) 事業体系図

事　　業　　名	ページ
ア　全ての小・中学校は、組織的に学力向上に取り組む。	
①墨田区学習状況調査	２８
②墨田区学習状況調査結果を活用したＰＤＣＡサイクルの確立【充実】	２９
③全国学力・学習状況調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査	３０
④墨田区教育研究奨励事業	３０
⑤学力向上委員長の指名及び学力向上委員会の設置【新規】	３１
イ　全ての教員は、よりよい授業の実現を目指す。	
①学校ＩＣＴ化の推進【充実】	３１
②教育指導向上研修	３２
③経験年数や教育課題に対応した研修	３２
④習熟度別指導・少人数習熟度別指導の実施	３３
⑤学力向上プランの作成・実施	３３
⑥授業スタイルの確立・実施【新規】	３４
⑦学習内容を定着させるための教材の活用【新規】	３４
⑧自分の考えを記述する教材の活用【新規】	３５
⑨指導のポイントの作成・活用【新規】	３６
⑩教育研究所ニュースの発行・活用	３６
⑪各教科等の学習における図書館利用の推進【新規】	３６
⑫学習意欲に関する共同研究の成果に基づいた取組【充実】	３７
⑬幼保小中一貫教育に関する学習指導の取組【充実】	３７
⑭学校支援ネットワーク事業	３８
ウ　学校や教育委員会は、家庭・地域と連携して、更なる学力向上を図る。	
①放課後や長期休業中の補習の充実	３８
②放課後子ども教室における学習活動への支援	３８
③すみだチャレンジ教室の実施	３９
④家庭学習の充実【新規】	３９
⑤家庭と地域の教育力充実事業	４０
⑥図書館を使った調べる学習コンクール	４０
⑦小学校すたーとブック・中学校入学プレブックの配布	４１
⑧ＰＴＡとの連携事業【新規】	４１

【新規】とは、新たに盛り込まれた事業（前計画の中途から先行的に実施している事業を含む。）である。【充実】とは、前計画において実施した事業のうち、内容を充実させた事業である。それ以外は、前計画からの継続事業である。

⑵ 具体的な事業

ア　全ての小・中学校は、組織的に学力向上に取り組む。

①　墨田区学習状況調査（すみだ教育研究所）

（ア）墨田区学習状況調査の実施

児童・生徒に確かな学力を身に付けさせ、自ら学び、課題解決できる区民を育成することを目的とした学力向上施策推進のための基礎的データを得ることや、区立小・中学校が学力向上の計画を策定し、授業改善の取組を積極的に進めるために、自校の実態や児童・生徒一人ひとりの学習状況を把握することを目的に実施する。

児童・生徒に調査結果を返却する際には、各学校の学級担任等が、三者面談等の機会に、学習に関するアドバイスを行う。

・教科に関する調査

国語、社会、算数・数学、理科、英語の定着度をみる調査

・意識調査

児童・生徒の生活習慣や学習習慣等に関する考え方や態度を把握するための調査

（イ）すみだ学力向上推進会議の開催

学力向上に関わる方向性や教育施策を検討する（年２回開催）。

（ウ）調査分析分科会

小・中学校の教育研究会から推薦された教員が、墨田区学習状況調査の調査結果を分析し、課題のある学習内容に関する指導のポイントを作成し、教員が活用する。

（エ）教育委員会からのメッセージ

全ての小・中学校の教員に対して、「各学校及び個々の教員の学力向上の取組が進んでいること」及び「児童・生徒の学力が向上していること」を評価したメッセージを送付し、教員の学力向上へのモチベーションが高まるようにする。

また、児童・生徒に対して、夢や希望を持って学習に取り組み続けることの大切さに関するメッセージを各教室に掲示し、学習へのモチベーションが高まるようにする。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
（ア）原則小学２年生から中学３年生の全児童・生徒に実施 （イ）年２回開催 （ウ）校種・教科別にプレゼンテーションソフトを用いて指導のポイントを作成 （エ）教員及び児童・生徒へのメッセージ	→ （イ）（ウ）◎実施 →	（ア）小学校及び中学校第１学年は、新学習指導要領に対応した調査を実施 → →	→ （ア）中学校第２・３学年は、新学習指導要領に対応した調査を実施 → →

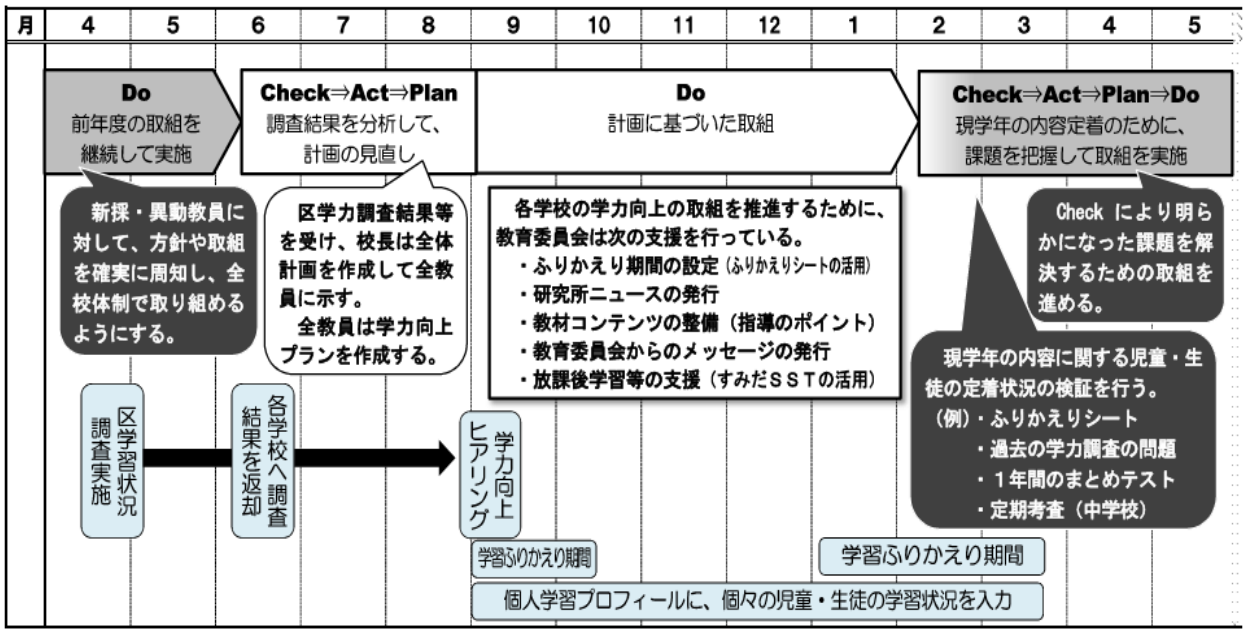
②　墨田区学習状況調査結果を活用したＰＤＣＡサイクルの確立【充実】（すみだ教育研究所）

本区では、毎年４月に墨田区学習状況調査を実施している。６月に明らかになる調査結果や自校の課題を踏まえて、校長が「学力向上を図るための全体計画」を作成する。それに基づいて、個々の教員は、担当する学級・教科に関する児童・生徒の学習状況を踏まえ、「学力向上プラン」を作成する。各計画は夏季休業中までに作成する。

各教員が「学力向上プラン」に基づいて取組を進め、単元末テストや学習ふりかえり期間等で内容の定着を確かめ、個々の児童・生徒の学習状況を「個人学習プロフィール」に記載する。次年度の担当教員は、「個人学習プロフィール」を参考にして、個に応じた指導に役立てる。そのために、これまでより詳細な学習状況を入力することができるよう、様式の改善を図る。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
・校長は、「学力向上を図るための全体計画」を作成 ・全教員は、「学力向上プラン」を作成 ・計画に基づいた実施及び進行管理 ・区学力調査で明らかになった個々の児童・生徒の学習状況を記載	◎実施 夏季休業中までに各計画を作成し、９月以降は計画に基づいた取組を実施する。取組が確実に行われるよう、組織的に進捗管理を行う。 ・当該学年の内容の定着状況を確かめ、明らかになった個々の児童・生徒の学習状況をより詳しく記載	◎実施	◎実施

（参考）学力向上に関わるＰＤＣＡサイクル（１年間の流れ）



③　全国学力・学習状況調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査

（すみだ教育研究所）

学校は、全国学力・学習状況調査や児童・生徒の学力向上を図るための調査を実施し、個々の児童・生徒の学習状況を把握し、今後の指導に役立てる。

学力調査の問題は、児童・生徒が身に付けるべき学力を具体化したものである。個々の教員が、国や都が発行する報告書や授業アイディア例を参考にし、調査問題を解くことで、調査問題の内容や趣旨を理解し、今後の指導に役立てる。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
全小・中学校において調査を実施	◎実施	◎実施	◎実施
	国や都が作成する報告書や授業アイディア例を参考に、調査問題を解くことで、調査問題の内容や趣旨を理解し、今後の指導に役立てる。		

④　墨田区教育研究奨励事業（指導室）

学力向上をはじめとする区の教育課題を踏まえて、校（園）内研修・研究の充実を図って学校の教育力を高める。

（ア）研究協力校（園）

教育委員会が示す「主要な教育課題」や今日的教育課題について特化した内容に関する研究実践を行い、その成果を公開発表する。（２年間）

（イ）特色ある学校づくり推進校（園）

学校（園）における特色ある教育活動を実践・研究し、その成果を公開発表する。

（ウ）個人・グループ奨励

教科等、その他の教育内容、教育方法等を研究する者に対し、研究奨励費を交付し、教員の自主的研究活動の奨励、助長を図る。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
（ア）研究協力校（園） ５校（園）（２年間） （イ）特色ある学校づくり推進校（園） １２校（園） （ウ）個人・グループ奨励 ２名・１グループ	◎実施	◎実施	◎実施
	①　研究協力校（園） ５校（園）（２年間） ②特色ある学校づくり推進校（園） １５校（園） ②　個人・グループ奨励		

（エ） 研究奨励及び特色ある学校づくり推進校実践発表会の開催	２名・１グループ ④ 研究奨励及び特色ある学校づくり推進校実践発表会の開催		

⑤ 学力向上委員長の指名及び学力向上委員会の設置【新規】（すみだ教育研究所）

全ての小・中学校に学力向上委員会等の組織を設置し、校長が委員長を指名する。

学力向上委員会は、「学校経営方針」や「学力向上を図るための全体計画」に基づき、学力向上に関する取組内容や取組方法を定め、個々の教員の役割を明確にする。

（学力向上に関する取組例）

・各種学力調査の運営　　・学力調査結果分析の役割分担

・学力向上プラン作成に関するスケジュール管理　　・学習ふりかえり期間の運営

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
	◎実施	◎実施	◎実施
	学力向上委員会が、学校経営方針や学力向上を図るための全体計画に基づき、取組内容や取組方法を定め、個々の教員の役割を明確にする。		

イ 全ての教員は、よりよい授業の実現を目指す。

① 学校ＩＣＴ化の推進【充実】（庶務課・指導室・すみだ教育研究所）

各教室に大型提示装置や教員用タブレット端末等のＩＣＴ機器を整備（更新）し、ＩＣＴを有効に活用できる環境を整えることによって、各学校がＩＣＴを活用してよりよい授業が行われるような環境を整備し、特別支援教育を含め、学校全体でＩＣＴを活用し指導力向上に向けた研修を行う。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
・ＩＣＴ機器を全小・中学校に整備 ・学習内容の定着を図るための教材（ふりかえりシート）をコンテンツに入れ、全校がコンテンツ内の教材を活用 ・研修会の実施 33 回	◎全小・中学校への整備完了及び実施	◎実施	◎実施
	１ 授業改善を図るための授業方法や授業等に役立つコンテンツの整備 ２ 機器操作マニュアル等の整備充実、ＩＣＴ支援員によるサポート ３ クラウドサービスの積極的活用による教職員の負担軽減の推進 ４ ＩＣＴの有効活用に関する事例の共有、研修会の実施		

②　教育指導向上研修（指導室）

３年間の「東京都若手教員育成研修」を終えた教員に対し、知識や経験に基づく実践力を高める本研修を位置付け、１１年目教員対象の「中堅教諭資質向上研修」につなげる。

特に、学習指導力の向上に重点を置く。「ねらいに沿って授業を展開する力」、「児童・生徒の興味を引き出し、個に応じた指導をする力」、「主体的な学習を促すことができる力」、「学習状況を適切に評価し授業を進める力」、「授業を振り返り改善する力」などの能力向上を目指す。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
研修受講者　１０名 研修回数　　１１回	◎実施	◎実施	◎実施
	→	→	→

③　経験年数や教育課題に対応した研修（指導室）

教員の経験年数等に応じて、効果的に研修を行っていくことは重要である。

（ア）１年次（初任者・新規採用者）研修

初任者・新規採用者を対象に、教職員研修室等（校外）における研修、 宿泊研修、課題別研修のほか、校内における研修を行う。

※ 教職員研修室等における研修（年間１４回）、宿泊研修（８月、あわの自然学園）、課題別研修（半日を１単位として６単位）、 校内における研修（授業に関する研修１２０時間、授業以外の研修６０時間、計１８０時間）

（イ）２，３年次研修

教職員研修室等（校外）における研修や、校内における研修を行う。

※　教職員研修室等における研修（２年次は年間３回、３年次は年間２回）、校内における研修（学習指導に関する研修１５時間、その他の研修１５時間、計３０時間）

（ウ）中堅教諭等資質向上研修

教諭等としての在職期間が１０年に達した教員（１１年目教員）に対し、学習指導、生活指導・進路指導等に対する指導力の向上、教育公務員としての資質向上等のための研修を実施する。

※　教職員研修室等研修、学習指導（５単位分）、公務員としての資質向上（９単位分）、生活指導・進路指導（２単位分）、校内における研修、学習指導（８～２０単位分）等

その他、各教科等の教育課題に対応した研修会を行う。受講した教員が各校で研修内容を還元し、各学校での教育活動の充実を図る。

・異なる学力層の子どもに対応した指導・支援に関する研修：多層指導モデルＭＩＭ研修会

・各教科等の指導・支援に関する研修：外国語活動研修会、道徳教育推進教師連絡会、理科実技研修会、体力向上研修会等

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
研修受講者 （ア）５１名 （イ）２年次　４７名 　　３年次　３８名 （ウ）３８名	◎実施	◎実施	◎実施

④　習熟度別指導・少人数習熟度別指導の実施（指導室）

基礎・基本が定着している児童・生徒には、更に発展的な学習を展開し、学力上位層の割合を増やすことを目指す。

東京都の習熟度別指導ガイドライン（算数・数学、英語）に基づき、既習事項の学び直しや反復学習などによる「補充的な指導」だけでなく、発展的な内容の学習や課題学習などによる「発展的な指導」を行う。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
・全小学校において、算数の習熟度別指導を実施 ・全中学校において、数学の習熟度別指導及び英語の少人数・習熟度別指導を実施	◎実施	◎実施	◎実施

⑤　学力向上プランの作成・実施（すみだ教育研究所）

教員は、担当する学級や教科の学習状況を常に把握し、課題解決のために指導方法や学力向上の取組を工夫することが大切である。

本区では、全ての教員が、夏季休業中に、墨田区学習状況調査結果や通常の授業の様子等から課題を明らかにし、校長が作成する「学力向上を図るための全体計画」を踏まえた具体的な課題解決の方法を「学力向上プラン」に定める。

全ての教員は、９月以降、プランに定めた取組を確実に実行する。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
教育委員会が「学力向上を図るための全体計画」及び「学力向上プラン」の様式を規定	◎実施	◎実施	◎実施

夏季休業中までに各計画を作成し、９月以降は計画に基づいた取組を実施する。取組が確実に行われるよう、組織的に進捗管理を行う。

⑥　授業スタイルの確立・実施【新規】（指導室）

墨田区の全教員が授業で取り入れていく指導方法「墨田区教師の授業スタイル」を各学校へ提示する。授業のはじめに学習することを明確にすること、児童・生徒が考え、主体的に学び、対話する時間を確保し、授業の最後に学習したことを一人ひとりが振り返ることを明示し、授業改善、指導力の向上を図る。

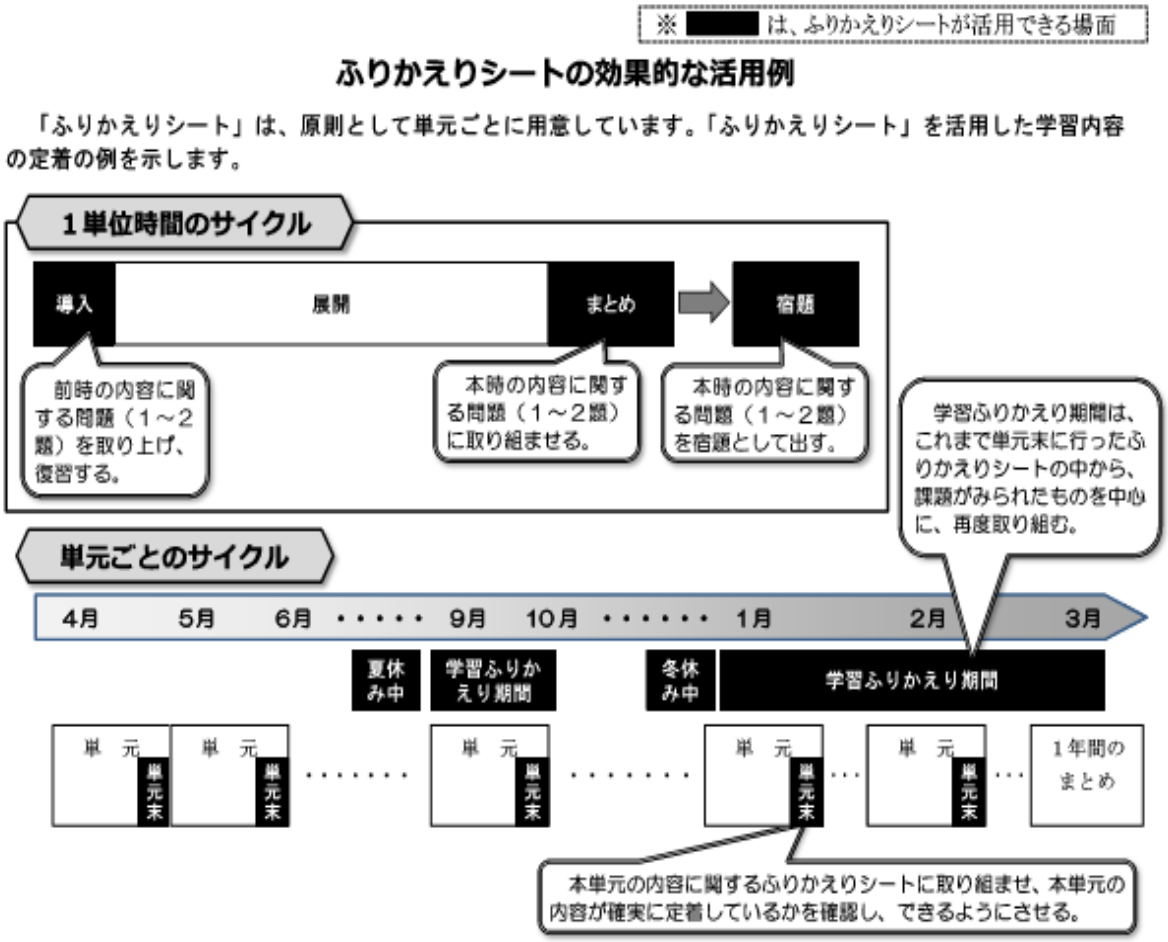
計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
学校サポート資料に掲載	◎実施	◎実施	◎実施
	リーフレットの配布		
	各学校でのOJTや校内研究授業の際に、「墨田区教師の授業スタイルチェックシート」を活用し、教員の授業力向上を図る。		

⑦　学習内容を定着させるための教材の活用【新規】（すみだ教育研究所）

児童・生徒が、授業で学習した内容を理解しているかの確認のために、教育委員会はＩＣＴのコンテンツ集に学習内容を定着させるための教材（ふりかえりシート）を収納する。学校は、授業の終末・宿題・単元末、学期末の「学習ふりかえり期間」等に、ふりかえりシートを活用して、繰り返し復習を行う。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
	◎実施	◎実施	◎実施

（参考）ふりかえりシートの効果的な活用例



⑧　自分の考えを記述する教材の活用【新規】（すみだ教育研究所）

全国学力・学習状況調査には、知識及び技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のために構想を立てて、実践し評価・改善する力に関する問題が出題されている。また、児童・生徒の学力向上を図るための調査には、「読み解く力」（文章や図表等から必要な情報を正確に取り出し、比較・関連付けて読み取り、理由を理解・解釈・推論して解決する力）に関する問題が出題されている。

これらの「自分の考えを記述する問題」をＩＣＴのコンテンツ集に収納（大問ごとに分割）し、学校が、児童・生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に関する取組の支援を行う。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
過去の国・都の調査問題を大問ごとに切り分けて、学校へ提供	◎実施	◎実施	◎実施
	各年度に実施した学力調査問題についても、大問ごとに切り分けて、学校へ提供する。		

⑨　指導のポイントの作成・活用【新規】（すみだ教育研究所）

学力調査により、区全体で課題がみられた学習内容について指導のポイントを作成し、小・中学校へ提供する。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
・教育指導員の配置（社会、算数・数学、理科）計３名 ・墨田区学習状況調査結果により、区全体で課題がみられた学習内容について、指導のポイントを作成	◎実施	◎実施	◎実施
	墨田区学習状況調査だけでなく、国や都の学力調査についても、区全体で課題がみられた学習内容について、指導のポイントの充実を図る。		

⑩　教育研究所ニュースの発行・活用（すみだ教育研究所）

新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な指導方法、学力調査問題の意図、児童・生徒が間違いやすい学習内容など、教員が教材研究を行う際の支援になるよう、学習に関わる様々な情報をまとめ、小・中学校へ提供する。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
社会、算数・数学、理科に関する教育研究所ニュースを月１回発行	◎実施	◎実施	◎実施

⑪　各教科等の学習における図書館利用の推進【新規】（指導室）

図書館資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習等を通じて、児童・生徒が主体的に考え、判断し、表現する力を育む。

学校図書館の全体計画及び年間指導計画を作成し、授業において学校図書館を活用した調べ学習を行う。その際、授業やレファレンス等への支援を学校図書館司書に協力を要請する。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
・学校図書館の全体計画及び年間指導計画の作成及び計画の実施 ・授業における学校図書館の活用	◎実施	◎実施	◎実施

⑫　学習意欲に関する共同研究の成果に基づいた取組【充実】（すみだ教育研究所）

東京未来大学との学習意欲に関する共同研究の成果（学習行動に表れるまでの心理的要素の過程、学習意欲測定尺度）について、教員対象の説明会を実施する。説明会の内容は授業等で活用することができるよう、より具体的・実践的なものとする。学校は、共同研究の成果を活用して、児童・生徒の学習意欲の向上につなげる。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
東京未来大学との共同研究の成果について、教員対象の説明会を実施	◎実施	◎実施	◎実施
	説明会の内容をより具体的・実践的なものになるよう工夫していく。		

⑬　幼保小中一貫教育に関する学習指導の取組【充実】（すみだ教育研究所）

「墨田区幼保小中一貫教育推進計画」（平成３０年度～令和４年度）に基づき、中学校区を単位とした全１０ブロックが、中学校卒業までを見通した学習指導を推進する。

中学校卒業までを見通した学習指導としては、「教科における連携」「出前授業、異校種間授業（保育）参観、協働授業等の実施」「学習に関するブロック内共通の取組」「学習意欲向上の取組」などを、中学校区ブロック内の園・学校同士が実施する。

また、園児が英語に触れ・慣れる機会として、全てのブロックにおいて英語活動体験を実施する。

計画前（令和元年度）	令和２年度	令和３年度	令和４年度
・一貫教育巡回指導員の配置　１名 ・墨田区幼保小中一貫教育推進計画に基づき、中学校卒業までを見通した学習指導を、全てのブロックで実施 ・園児が英語に触れ・慣れる機会として、英語活動体験を、全てのブロックで実施	◎実施	◎実施	◎実施
	展開方法や実施規模、実施主体などを見直しながら、より効果的な取組となるよう検討する。		墨田区幼保小中一貫教育推進計画の効果検証を行い、計画の改定作業を行う。

⑭　学校支援ネットワーク事業（地域教育支援課）

地域企業・団体等が、各学校で出前授業を実施し、児童・生徒に対して、単元等の学習内容に関係した専門的知識・技術等を伝達する。このことにより、児童・生徒は、学習した内容の理解が更に深まり、学習した内容が日常生活・社会においてどのように関わっているかを学ぶことができる。

学校が期待する出前授業を実施することができるよう、協力団体等の新規開拓や、地域人材の発掘や事業の啓発等を進める。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
協力団体 ３２５団体 実施回数 ４７６回	◎実施	◎実施	◎実施
	→	→	→

ウ　学校や教育委員会は、家庭・地域と連携して、更なる学力向上を図る。

①　放課後や長期休業中の補習の充実（すみだ教育研究所）

学校は、授業中に学習内容の理解・定着が不十分だった児童・生徒に対して、放課後学習等を実施し、学習内容を「分かる」「できる」ようにする。

教育委員会は、すみだスクールサポートティーチャー（すみだＳＳＴ）の募集・登録を行い、支援人材を必要とする学校にすみだＳＳＴを派遣し、授業中や放課後学習の補助を行う。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
・すみだＳＳＴ登録者数　２１５名 ・学校へＳＳＴを派遣している時間数（１校当たり） 小学校　５０８時間 中学校　４７６時間	◎実施	◎実施	◎実施
	すみだＳＳＴを活用した放課後学習等の更なる充実を図る。	→	→

②　放課後子ども教室における学習活動への支援（地域教育支援課）

学校主体で計画的に実施する「放課後学習」以外に地域が関わって学習する機会を設けることは、宿題をするほか学習時間を増やす面からも有効である。

保護者や地域住民の参画を得ながら放課後の児童の居場所を設ける「放課後子ども教室」の中で、学習活動を行う自主的な取組に対し、支援を行う。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
２０校で実施	◎実施	◎実施	◎実施
	→	→	→

③　すみだチャレンジ教室の実施（すみだ教育研究所）

学力の定着に課題があり、補習を希望する児童・生徒を対象に、放課後や夏休み等に補習教室を開催し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や学習意欲の喚起を図る。

放課後等の補習教室では、実施校を選定し、原則、週１回（１コースにつき計９回）に教室を開催する。学校と協力し、授業や放課後学習との連携を図る。

夏休みの補習教室では、全中学校から、参加を希望する中学生を募集し、区役所内の会議室にて５日間開催する。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
（ア） ６校で実施 １校当たり９回実施 （イ） 区役所内の会議室で、夏季休業中に５回実施 （その他） 土曜日の午後 ２校で実施 １校当たり９回実施	◎実施	◎実施	◎実施
	→	→	→
	展開方法や実施規模、実施主体などを見直しながら、学校と連携を図り、効果的な運営を図る。		

④　家庭学習の充実【新規】（すみだ教育研究所）

児童・生徒の発達段階に応じて、ふりかえりシート等の教材を活用し、授業で学習した内容の定着（復習）だけでなく、次の授業の準備（予習）や自ら課題を見付けて行う学習（自習）に取り組ませ、家庭学習の充実を図る。また、児童・生徒に家庭学習の仕方を指導し、家庭学習習慣の確立を図る。保護者には、励ましなどの声掛けを求めていく。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
	◎実施	◎実施	◎実施
	→	→	→

⑤　家庭と地域の教育力充実事業（地域教育支援課）

保護者に対して、「家庭教育に関わる様々な情報」や「親同士の学びの場や仲間づくりの機会」を提供するなど、関係部署と連携した効果的な事業を展開する。

（ア）家庭教育支援講座

園や小学校のＰＴＡと連携し、保護者や地域の一般区民を対象として、子どもの生活習慣の改善や家庭における学習習慣付けを目的とした講座を開催する。

（イ）家庭教育学級補助金交付事業

家庭における子どもの教育を支援するために、区立幼稚園保護者の会、小・中学校ＰＴＡ等が実施主体となり、家庭教育に関するテーマで講座・講演会を開催するために要する経費の一部を補助する。

（ウ）子育て通信

「子育て支援コラム」等を掲載した内容の広報誌を発行する。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
（ア）１２回実施	◎実施	◎実施	◎実施
（イ）１３団体へ交付			
（ウ）　４回発行	展開方法や実施規模などを見直しながら、継続的に実施する。		

⑥　図書館を使った調べる学習コンクール（指導室・ひきふね図書館）

図書館資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒が主体的に考え、判断し、表現する力を育む。

（ア）授業における学校図書館の支援

学校図書館司書が学校図書館の全体計画及び年間指導計画に基づき、授業において学校図書館を活用した調べ学習を行う際の環境整備を行う。

（イ）図書館を使った調べる学習コンクールへの参加促進及び支援

児童・生徒自身が立てた問いについて、図書、インターネット、インタビュー等から得られた情報をまとめ、「図書館を使った調べる学習」の取組の過程の中で、児童・生徒には、「情報を活用する力」、「情報リテラシー」が育まれることが期待できる。本コンクールへの参加を各学校、保護者等に積極的に促すとともに、保護者向け説明会や応援講座、個別相談会の開催により参加者等への支援を行う。また、取組の過程で必要となる図書の選定（レファレンスサービス）等の支援も学校と区立図書館が連携して行う。

（ウ）団体貸出

児童・生徒が学習内容を理解する・深めることを支援するため、授業中又は授業後に活用することのできる参考図書のセット貸出を行う。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
（ア）授業における学校図書館の支援 （イ）図書館を使った調べる学習コンクールへの参加促進及び支援 （ウ）団体貸出	◎実施	◎実施	◎実施

⑦　小学校すたーとブック・中学校入学プレブックの配布（すみだ教育研究所）

（ア）小学校すたーとブック

就学を控えた５歳児の保護者に対して、子どもが小学校へ入学するに当たって、どのような力を身に付けておけばよいか、そのために家庭では何をしたらよいかなどをまとめた冊子を作成・配布し、家庭の教育力向上を図る。

（イ）中学校入学プレブック

小学６年生に対して、中学生としての学習に取り組む姿勢、中学校で学習する教科の概要、小学校の学習内容の定着を図るための問題などをまとめた冊子を作成・配布し、入学後、円滑に学習に取り組むことができるようにする。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
（ア）５歳児の保護者を対象に２５００部作成・配布 （イ）小学６年生を対象に２３００部作成・配布	◎実施	◎実施	◎実施

⑧　ＰＴＡとの連携事業【新規】（地域教育支援課・すみだ教育研究所）

教育委員会が、小・中学校ＰＴＡ会長会で、「学力向上が子どもたちの夢や希望の実現につながること」や「学習に取り組んでいることを認め励まし、学習意欲を向上させる働きかけが重要であること」など、学力向上に関する情報を提供し、ＰＴＡは各学校の保護者に周知していく。学校単位のＰＴＡからの依頼により、教育委員会の職員が、学力向上に関する説明を行う。

なお、青少年育成委員会や青少年委員協議会にも周知し、地域からも子どもたちに対して、夢や希望の実現に向けた励ましなどの声掛けを行うよう依頼する。

計画前(令和元年度)	令和２年度	令和３年度	令和４年度
	◎実施	◎実施	◎実施

参考資料

墨田区学習状況調査における平均正答率の推移（平成28年度から平成31年度まで）

墨田区学力向上新３か年計画（平成２８年度～平成３０年度）

○　小学校

平成３１年度調査　３年間の取組の結果

教科	観点	第2学年 目標値	第2学年 墨田区	第2学年 全国	第3学年 目標値	第3学年 墨田区	第3学年 全国	第4学年 目標値	第4学年 墨田区	第4学年 全国	第5学年 目標値	第5学年 墨田区	第5学年 全国	第6学年 目標値	第6学年 墨田区	第6学年 全国
国語	国語への関心・意欲・態度	68.1	70.9	67.1	70.6	74.9	71.6	62.5	65.9	61.6	64.4	70.0	68.7	66.3	71.4	69.4
	話す・聞く能力	74.3	81.4	79.0	75.7	81.9	77.9	62.0	65.2	62.0	76.7	85.8	83.8	80.0	87.3	86.6
	書く能力	61.4	61.6	56.5	67.8	70.4	66.8	59.5	61.2	56.2	57.7	61.9	60.9	57.7	63.3	60.3
	読む能力	69.3	72.5	68.8	60.6	68.9	60.5	67.9	71.6	67.9	68.4	73.8	69.4	63.1	66.4	63.5
	言語についての知識・理解・技能	90.0	94.7	95.5	77.7	83.4	80.9	69.8	74.0	70.6	72.6	79.7	78.5	71.0	74.5	74.1
社会	社会的事象への関心・意欲・態度							60.9	64.9	62.1	53.3	59.4	58.5	59.4	63.3	62.7
	社会的な思考・判断・表現							61.6	66.1	62.8	55.6	57.8	58.0	63.1	65.6	65.5
	観察・資料活用の技能							64.2	68.6	64.9	54.3	56.2	53.3	66.0	67.4	66.6
	社会的事象についての知識・理解							70.8	73.2	71.8	59.0	62.5	60.0	63.9	65.7	63.9
算数	算数への関心・意欲・態度	69.5	73.2	70.7	60.0	64.2	59.1	66.4	71.0	67.4	56.7	59.7	56.0	38.0	40.3	35.4
	数学的な考え方	72.7	77.1	74.8	62.6	66.9	62.4	57.4	60.9	58.6	56.6	59.0	56.7	51.7	52.1	50.3
	数量や図形についての技能	83.0	87.8	87.2	77.9	82.6	80.2	76.2	80.3	78.4	69.0	70.7	69.9	67.6	69.8	68.4
	数量や図形についての知識・理解	84.3	87.9	86.8	70.5	76.7	72.8	73.4	79.2	75.6	66.1	68.8	67.4	65.0	67.5	65.9
理科	自然事象への関心・意欲・態度							62.1	64.8	64.4	63.3	63.6	65.6	61.3	61.3	62.1
	科学的な思考・表現							58.2	61.4	59.4	62.5	63.2	63.9	57.3	59.1	57.4
	観察・実験の技能							66.3	66.7	67.3	75.0	75.5	78.3	43.5	35.0	37.3
	自然事象についての知識・理解							63.5	65.2	65.1	68.1	69.1	70.0	63.0	62.8	62.8

平成３０年度調査　２年間の取組の結果

教科	観点	第2学年 目標値	第2学年 墨田区	第2学年 全国	第3学年 目標値	第3学年 墨田区	第3学年 全国	第4学年 目標値	第4学年 墨田区	第4学年 全国	第5学年 目標値	第5学年 墨田区	第5学年 全国	第6学年 目標値	第6学年 墨田区	第6学年 全国
国語	国語への関心・意欲・態度	73.8	80.2	77.0	68.1	70.5	68.6	66.9	70.8	66.8	61.9	66.3	62.3	66.9	70.1	69.5
	話す・聞く能力	68.0	74.8	71.3	77.1	82.4	80.8	67.0	71.4	67.0	60.0	63.5	60.3	64.4	65.7	64.3
	書く能力	76.9	82.5	79.4	59.5	60.6	58.0	62.7	65.4	62.6	56.0	62.9	57.4	64.1	66.9	68.5
	読む能力	66.1	71.8	69.0	63.6	67.7	63.8	65.0	69.1	64.5	71.6	78.6	74.9	69.4	73.0	74.0
	言語についての知識・理解・技能	90.0	93.7	94.6	81.4	85.4	84.3	71.0	73.3	73.8	70.4	78.6	76.4	64.4	70.2	69.0
社会	社会的事象への関心・意欲・態度							58.9	62.8	59.0	60.6	64.3	64.1	59.0	58.6	61.4
	社会的な思考・判断・表現							62.4	65.4	62.4	56.9	59.2	59.1	60.7	59.7	62.7
	観察・資料活用の技能							68.9	71.3	68.5	60.5	61.3	60.1	64.5	61.1	64.0
	社会的事象についての知識・理解							68.8	69.8	68.5	63.2	64.5	62.9	63.6	59.9	63.1
算数	算数への関心・意欲・態度	71.1	74.8	70.4	61.0	66.2	63.3	72.5	74.6	71.4	57.5	55.6	51.0	40.0	33.1	32.2
	数学的な考え方	68.4	72.3	67.8	67.2	68.7	65.5	64.4	69.1	66.5	61.1	61.0	57.5	56.8	52.8	53.0
	数量や図形についての技能	81.0	87.3	85.0	79.3	82.2	80.5	77.6	80.9	79.8	68.6	67.8	66.1	68.2	67.4	69.9
	数量や図形についての知識・理解	83.2	87.3	84.7	71.1	73.5	70.8	74.7	77.5	74.7	66.9	66.5	64.4	71.3	70.8	72.7
理科	自然事象への関心・意欲・態度							76.3	82.0	81.0	70.5	68.6	72.7	60.7	54.3	62.0
	科学的な思考・表現							61.3	67.3	64.0	63.6	63.6	66.0	64.0	61.0	68.6
	観察・実験の技能							80.5	84.3	85.9	70.5	74.6	75.5	68.7	62.2	72.5
	自然事象についての知識・理解							70.7	75.5	73.4	71.3	69.8	73.9	68.7	63.5	70.9

	観点数
B（全国平均）≦A（区平均） 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い（同じ場合を含む）。	６０／69
B－5(全国平均－5)≦A(区平均)＜B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	９／69
A（区平均）＜B－５（全国平均－５） 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。	０／69

	観点数
B（全国平均）≦A（区平均） 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い（同じ場合を含む）。	４９／69
B－5(全国平均－5)≦A(区平均)＜B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	１６／69
A（区平均）＜B－５（全国平均－５） 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。	４／69

※ 区平均正答率が、全国平均正答率以上である観点
区平均正答率が、全国平均正答率よりも低いが、全国平均正答率の－５ポイント以上である観点
区平均正答率が、全国平均正答率の－５ポイント未満である観点
※ 目標値は、標準的な時間を掛けて学んだ場合、期待される正答率を示したもの（単位：％）

旧計画（平成２５年度～平成２７年度）

平成２９年度調査　１年間の取組の結果

教科	観点	第2学年 目標値	第2学年 墨田区	第2学年 全国	第3学年 目標値	第3学年 墨田区	第3学年 全国	第4学年 目標値	第4学年 墨田区	第4学年 全国	第5学年 目標値	第5学年 墨田区	第5学年 全国	第6学年 目標値	第6学年 墨田区	第6学年 全国
国語	国語への関心・意欲・態度	75.6	81.1	81.0	65.6	74.5	71.8	68.1	74.0	68.3	65.6	77.8	76.4	65.6	71.3	70.6
	話す・聞く能力	71.0	75.8	75.3	63.0	72.6	67.8	71.1	74.8	70.6	75.0	87.5	87.4	60.0	67.2	67.6
	書く能力	78.1	84.6	84.8	65.6	75.7	74.3	61.4	69.7	62.3	58.5	72.1	70.2	67.3	70.7	70.0
	読む能力	66.4	71.2	69.6	64.3	75.3	70.9	63.9	75.0	68.9	73.4	81.3	79.7	72.2	78.5	78.3
	言語についての知識・理解・技能	90.0	95.4	95.7	80.9	90.1	89.1	67.4	75.3	72.8	68.4	72.9	72.9	69.2	74.6	74.9
社会	社会的事象への関心・意欲・態度							64.5	69.0	62.9	66.0	70.5	68.5	64.2	66.3	68.5
	社会的な思考・判断・表現							63.7	69.7	65.5	65.2	66.9	68.4	65.0	66.7	67.7
	観察・資料活用の技能							71.3	75.9	75.1	67.9	67.4	69.0	69.4	70.0	72.2
	社会的事象についての知識・理解							76.4	81.4	78.6	70.2	73.2	71.8	68.3	70.1	70.9
算数	算数への関心・意欲・態度	65.6	66.8	66.5	56.5	60.1	58.2	67.5	75.0	71.0	59.3	62.5	62.8	40.0	40.0	37.2
	数学的な考え方	70.7	72.1	72.5	63.9	71.4	68.6	60.6	69.3	66.1	60.2	62.5	63.8	56.1	54.7	56.1
	数量や図形についての技能	82.5	86.5	86.2	76.9	80.9	80.0	76.1	81.5	79.8	71.4	72.1	74.2	71.0	69.0	71.7
	数量や図形についての知識・理解	83.1	84.6	84.6	69.8	76.2	75.6	74.0	80.8	77.0	70.3	70.9	72.6	68.6	67.2	69.9
理科	自然事象への関心・意欲・態度							67.7	69.1	73.0	61.1	60.4	66.3	70.4	69.5	77.2
	科学的な思考・表現							58.4	62.2	62.5	54.8	50.0	56.3	62.6	61.7	67.7
	観察・実験の技能							64.4	64.7	66.5	71.3	75.8	79.3	60.0	56.5	64.4
	自然事象についての知識・理解							67.2	69.7	71.5	66.3	64.9	70.7	68.2	66.5	73.1

平成２８年度調査

教科	観点	第2学年 目標値	第2学年 墨田区	第2学年 全国	第3学年 目標値	第3学年 墨田区	第3学年 全国	第4学年 目標値	第4学年 墨田区	第4学年 全国	第5学年 目標値	第5学年 墨田区	第5学年 全国	第6学年 目標値	第6学年 墨田区	第6学年 全国
国語	国語への関心・意欲・態度	73.8	77.8	79.8	61.9	61.2	60.5	69.4	73.3	74.6	63.8	66.4	66.6	67.5	70.4	73.9
	話す・聞く能力	75.0	81.9	82.4	63.8	66.0	64.9	72.2	78.2	78.3	69.4	75.6	75.4	71.7	77.9	80.6
	書く能力	70.0	72.1	75.0	59.4	57.2	56.3	62.7	64.1	66.7	55.5	55.2	56.1	64.6	65.1	69.3
	読む能力	72.5	77.2	76.7	65.7	67.9	66.0	67.5	70.9	69.4	68.2	71.8	70.9	67.5	73.4	75.8
	言語についての知識・理解・技能	88.9	93.4	94.4	83.2	86.4	85.8	72.2	73.4	73.9	69.6	73.9	75.1	67.2	68.9	71.2
社会	社会的事象への関心・意欲・態度							44.3	38.6	44.9	51.3	54.2	55.3	59.2	61.1	63.9
	社会的な思考・判断・表現							46.9	41.3	47.2	51.3	54.2	55.3	59.6	62.1	65.0
	観察・資料活用の技能							59.0	54.2	59.5	54.8	54.0	53.1	61.3	66.9	69.8
	社会的事象についての知識・理解							63.1	57.2	63.5	63.8	64.3	64.0	65.5	63.6	68.2
算数	算数への関心・意欲・態度	71.1	74.7	74.9	59.0	57.4	56.4	67.5	68.5	67.6	60.8	60.3	59.2	55.0	47.3	51.9
	数学的な考え方	74.5	75.4	76.6	63.0	64.0	62.9	58.1	57.0	59.2	59.4	60.3	61.3	60.6	56.4	60.9
	数量や図形についての技能	85.4	87.9	88.7	78.1	79.1	79.2	75.6	76.4	78.0	71.3	69.1	71.8	72.7	68.0	73.1
	数量や図形についての知識・理解	84.1	88.2	87.8	66.1	65.9	67.4	77.0	77.9	78.2	65.0	63.7	64.7	70.2	65.4	71.3
理科	自然事象への関心・意欲・態度							65.0	63.3	62.9	64.4	63.4	66.1	64.2	60.8	65.5
	科学的な思考・表現							60.3	58.2	59.0	61.1	60.0	64.0	59.2	55.2	60.1
	観察・実験の技能							60.4	59.3	59.9	65.0	66.8	69.7	63.1	58.8	63.6
	自然事象についての知識・理解							68.7	68.4	69.7	65.6	65.2	68.5	71.2	68.6	73.3

	観点数
B（全国平均）≦A（区平均） 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い（同じ場合を含む）。	３９／69
B－5(全国平均－5)≦A(区平均)＜B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	２３／69
A（区平均）＜B－５（全国平均－５） 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。	７／69

	観点数
B（全国平均）≦A（区平均） 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い（同じ場合を含む）。	１７／69
B－5(全国平均－5)≦A(区平均)＜B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	４６／69
A（区平均）＜B－５（全国平均－５） 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。	６／69

墨田区学力向上新３か年計画（平成２８年度～平成３０年度）

○　中学校

平成３１年度調査　３年間の取組の結果

教科	観点	第1学年 目標値	第1学年 墨田区	第1学年 全国	第2学年 目標値	第2学年 墨田区	第2学年 全国	第3学年 目標値	第3学年 墨田区	第3学年 全国
国語	国語への関心・意欲・態度	78.3	83.3	82.9	66.7	73.2	70.0	66.7	67.4	70.8
	話す・聞く能力	80.0	85.2	85.0	64.2	70.1	67.3	71.3	76.3	77.3
	書く能力	67.9	71.1	70.9	64.7	71.4	68.1	60.9	59.7	64.1
	読む能力	65.7	69.8	67.8	50.9	53.5	51.9	59.2	63.7	62.4
	言語についての知識・理解・技能	62.6	64.6	65.5	70.2	74.4	74.1	67.8	71.0	70.6
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	61.9	62.6	63.8	59.1	60.6	61.3	55.0	52.8	56.1
	社会的な思考・判断・表現	58.5	59.7	60.2	56.1	58.2	59.0	49.0	46.1	49.4
	資料活用の技能	62.0	61.8	63.1	62.9	62.9	64.5	56.7	53.2	57.3
	社会的事象についての知識・理解	64.0	62.7	64.9	65.8	66.1	68.5	58.6	53.5	58.8
数学	数学への関心・意欲・態度	65.4	66.4	67.9	38.0	32.6	33.5	45.5	44.4	42.4
	数学的な見方や考え方	62.9	63.1	64.9	43.7	40.1	41.0	41.8	40.5	38.7
	数学的な技能	70.8	71.5	72.7	56.8	58.2	56.6	60.7	64.8	62.0
	数量や図形などについての知識・理解	73.8	72.9	75.3	53.2	52.3	54.0	55.2	57.4	55.3
理科	自然事象への関心・意欲・態度	52.8	45.2	51.3	60.3	59.5	62.4	55.3	51.4	55.9
	科学的な思考・表現	55.1	49.3	54.8	50.3	50.1	51.1	53.0	49.8	53.5
	観察・実験の技能	69.4	69.1	72.5	66.5	64.9	69.8	65.0	63.9	69.5
	自然事象についての知識・理解	63.4	60.0	64.3	60.6	56.3	61.0	55.8	53.3	55.5
英語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度				62.3	65.0	64.0	64.1	66.2	65.4
	外国語表現の能力				45.0	46.5	46.2	50.9	52.5	50.6
	外国語理解の能力				65.3	68.1	67.6	63.7	65.9	65.2
	言語や文化についての知識・理解				59.6	57.6	59.0	56.3	59.9	58.4

	観点数
B（全国平均）≦A（区平均） 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い（同じ場合を含む）。	２３／59
B－5(全国平均－5)≦A(区平均)＜B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	３２／59
A（区平均）＜B－５（全国平均－５） 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。	４／59

平成３０年度調査　２年間の取組の結果

教科	観点	第1学年 目標値	第1学年 墨田区	第1学年 全国	第2学年 目標値	第2学年 墨田区	第2学年 全国	第3学年 目標値	第3学年 墨田区	第3学年 全国
国語	国語への関心・意欲・態度	59.4	60.2	57.3	60.6	62.7	59.6	72.2	73.7	74.2
	話す・聞く能力	60.4	61.7	60.6	77.5	83.4	81.1	79.0	81.6	83.2
	書く能力	55.0	56.0	51.7	50.6	50.2	47.2	62.5	63.9	64.0
	読む能力	56.3	57.7	56.7	52.6	54.8	52.9	52.1	50.0	51.0
	言語についての知識・理解・技能	67.6	68.8	70.5	73.7	75.5	75.8	63.8	63.6	64.2
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	52.3	51.0	52.7	51.7	51.4	54.1	57.0	55.6	59.3
	社会的な思考・判断・表現	58.5	61.6	61.0	45.8	45.4	47.8	50.6	48.7	53.3
	資料活用の技能	52.2	50.1	51.1	51.3	48.1	52.3	55.2	49.9	55.9
	社会的事象についての知識・理解	58.7	56.5	58.7	54.0	47.7	54.3	57.6	52.5	58.1
数学	数学への関心・意欲・態度	66.4	66.2	68.0	46.7	49.6	46.8	40.5	35.9	36.4
	数学的な見方や考え方	65.8	66.1	67.0	48.1	49.9	48.0	43.9	41.1	40.4
	数学的な技能	76.7	76.3	76.7	60.8	65.8	61.2	60.5	62.2	59.8
	数量や図形などについての知識・理解	66.6	65.4	67.2	54.1	58.1	54.0	57.1	56.5	55.9
理科	自然事象への関心・意欲・態度	57.6	50.5	55.6	49.8	45.8	47.5	52.4	39.6	44.8
	科学的な思考・表現	58.9	52.4	57.3	50.1	46.5	49.0	53.1	40.7	46.1
	観察・実験の技能	60.6	51.4	59.5	58.6	55.2	55.2	53.1	37.4	44.0
	自然事象についての知識・理解	61.9	52.6	59.4	57.5	53.7	56.6	57.4	47.9	53.4
英語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度				58.0	60.1	55.2	63.0	63.5	61.2
	外国語表現の能力				48.4	48.8	43.7	48.4	45.9	43.7
	外国語理解の能力				61.1	63.9	59.4	63.3	65.1	63.1
	言語や文化についての知識・理解				50.4	49.9	44.0	60.4	61.6	59.3

	観点数
B（全国平均）≦A（区平均） 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い（同じ場合を含む）。	２５／59
B－5(全国平均－5)≦A(区平均)＜B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	２４／59
A（区平均）＜B－５（全国平均－５） 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。	１０／59

※ 区平均正答率が、全国平均正答率以上である観点
区平均正答率が、全国平均正答率よりも低いが、全国平均正答率の－５ポイント以上である観点
区平均正答率が、全国平均正答率の－５ポイント未満である観点
※ 目標値は、標準的な時間を掛けて学んだ場合、期待される正答率を示したもの（単位：％）

旧計画（平成２５年度～平成２７年度）

平成２９年度調査　１年間の取組の結果

教科	観点	第1学年 目標値	第1学年 墨田区	第1学年 全国	第2学年 目標値	第2学年 墨田区	第2学年 全国	第3学年 目標値	第3学年 墨田区	第3学年 全国
国語	国語への関心・意欲・態度	66.7	73.4	71.5	65.6	67.6	64.1	67.2	68.1	70.6
	話す・聞く能力	67.7	73.4	71.9	61.1	61.3	61.2	72.5	66.3	70.5
	書く能力	60.4	67.4	65.7	66.3	72.1	65.7	61.8	69.4	70.2
	読む能力	65.3	71.6	70.0	59.0	65.6	64.6	62.4	70.3	70.6
	言語についての知識・理解・技能	72.6	77.0	78.4	74.4	79.0	78.7	72.6	75.3	76.2
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	55.7	52.5	57.8	52.3	48.1	51.3	51.3	49.9	52.5
	社会的な思考・判断・表現	56.1	53.7	58.2	48.0	42.8	45.4	49.0	44.5	47.2
	資料活用の技能	62.0	58.8	62.8	55.7	51.8	54.9	57.1	52.3	55.9
	社会的事象についての知識・理解	60.0	52.7	57.9	56.4	49.5	54.4	59.4	55.1	59.4
数学	数学への関心・意欲・態度	58.2	57.5	59.9	51.7	50.7	51.8	52.0	51.5	53.5
	数学的な見方や考え方	59.2	57.5	59.6	49.2	48.1	49.4	54.5	53.2	55.4
	数学的な技能	71.5	73.5	73.8	62.1	62.1	61.7	62.2	62.8	63.0
	数量や図形などについての知識・理解	58.2	56.8	59.6	53.1	51.7	53.7	59.3	59.2	60.0
理科	自然事象への関心・意欲・態度	57.3	53.5	60.0	49.4	43.2	46.7	58.0	55.0	60.3
	科学的な思考・表現	58.9	56.8	62.7	50.2	45.3	47.9	51.5	50.5	53.5
	観察・実験の技能	74.2	74.6	78.4	61.4	58.0	60.5	64.4	54.0	61.5
	自然事象についての知識・理解	57.0	47.6	56.6	59.1	53.2	58.0	60.3	57.0	62.8
英語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度				65.0	67.6	67.6	63.3	64.3	64.8
	外国語表現の能力				53.8	53.1	54.4	49.1	47.5	47.9
	外国語理解の能力				61.4	61.2	61.0	68.3	72.3	72.8
	言語や文化についての知識・理解				62.9	60.8	62.4	65.4	70.4	69.6

	観点数
B（全国平均）≦A（区平均） 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い（同じ場合を含む）。	１３／59
B－5(全国平均－5)≦A(区平均)＜B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	３８／59
A（区平均）＜B－５（全国平均－５） 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。	８／59

平成２８年度調査

教科	観点	第1学年 目標値	第1学年 墨田区	第1学年 全国	第2学年 目標値	第2学年 墨田区	第2学年 全国	第3学年 目標値	第3学年 墨田区	第3学年 全国
国語	国語への関心・意欲・態度	66.7	70.5	68.3	72.2	77.4	75.5	63.9	64.7	66.1
	話す・聞く能力	70.0	75.7	74.3	70.6	74.1	74.7	68.9	73.3	75.7
	書く能力	59.6	62.2	59.2	70.7	77.5	73.9	58.3	55.7	56.4
	読む能力	54.5	57.0	55.9	61.4	67.0	66.3	58.3	62.3	63.5
	言語についての知識・理解・技能	66.6	68.3	68.8	71.2	75.7	75.2	65.4	66.9	69.7
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	51.7	46.9	50.9	53.0	49.0	54.5	52.5	47.9	53.0
	社会的な思考・判断・表現	49.8	46.3	50.8	53.5	49.6	54.3	50.4	47.8	51.2
	資料活用の技能	53.9	49.9	53.6	56.1	51.3	56.7	54.4	50.3	54.0
	社会的事象についての知識・理解	56.4	50.0	55.4	55.7	49.9	56.2	57.0	51.8	57.0
数学	数学への関心・意欲・態度	67.1	67.1	68.9	58.1	58.0	59.1	46.7	43.5	46.2
	数学的な見方や考え方	65.7	66.2	67.4	55.5	55.0	56.2	49.3	46.5	49.2
	数学的な技能	74.5	73.1	75.0	61.3	61.8	61.5	60.5	60.8	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	65.4	63.2	65.4	57.3	56.4	58.1	58.2	59.4	59.3
理科	自然事象への関心・意欲・態度	64.7	63.3	68.9	55.3	42.9	49.1	52.8	45.5	50.6
	科学的な思考・表現	64.9	61.7	68.1	55.0	46.5	51.3	52.2	43.4	49.3
	観察・実験の技能	67.9	65.7	71.5	48.9	29.4	38.9	50.0	36.7	46.6
	自然事象についての知識・理解	59.4	53.2	59.0	57.9	47.5	54.0	58.6	51.8	58.0
英語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度				62.0	61.5	63.0	62.7	62.1	64.0
	外国語表現の能力				48.8	44.7	49.6	47.8	42.8	45.5
	外国語理解の能力				65.8	67.8	68.1	65.0	66.0	67.5
	言語や文化についての知識・理解				66.7	62.3	66.8	60.4	60.5	60.5

	観点数
B（全国平均）≦A（区平均） 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い（同じ場合を含む）。	１１／59
B－5(全国平均－5)≦A(区平均)＜B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	３１／59
A（区平均）＜B－５（全国平均－５） 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。	１７／59

参考資料

墨田区学力向上新３か年計画（第２次）改定のポイント

１　基本方針の改定

前計画	第２次計画
・学習に取り組む習慣を身に付けさせる。 ・基礎・基本を中心とした知識の定着を図る。 ・教員の授業力向上に取り組む。 ・発展的学習の機会を提供する。	児童・生徒に、知識及び技能を確実に定着させ、思考力・判断力・表現力等を育み、自ら進んで学びに向かう力を養う。 ・学校は、組織的に学力向上に取り組む。 ・教員は、よりよい授業の実現を目指す。 ・学校や教育委員会は、家庭・地域と連携して、更なる学力向上を図る。

２　短期目標（令和４年度まで）の改定

前計画	第２次計画
・Ｄ・Ｅ層の割合を減少させる。	・Ｄ・Ｅ層の割合を更に減少させる。 ※前計画で目標値を達成した学年・教科は、更に高い目標値を設定した。達成しなかった学年・教科は、引き続き同じ目標値を設定した。
・「読む能力」「書く能力」「言語について知識・理解・技能」を向上させる。	・前計画でおおむね目標を達成したため、第２次計画の目標とはしない。
・「思考力・判断力・表現力」を向上させる。	・前計画でおおむね目標を達成したが、更に高い目標として、全国学力・学習状況調査における目標値を設定した。
	・意識調査において、家庭学習習慣に関する目標値を新たに設定した。

３　新規事業・内容を充実させる事業

前計画	第２次計画
墨田区学習状況調査結果を活用したＰＤＣＡサイクルの確立（個人学習プロフィール）【充実】	
墨田区学習状況調査において明らかになった個々の児童・生徒の定着状況を記載し、次年度に引き継いだ。	学級担任・教科担当教員が、単元末テストや学習ふりかえり期間等で内容の定着状況を確かめ、明らかになった個々の児童・生徒の定着状況をより詳しく記載し、次年度に引き継ぐ。
学力向上委員長の指名及び学力向上委員会の設置【新規】	
	校長が指名した委員長を中心として、「学校経営方針」や「学力向上を図るための全体計画」に基づき、学力向上の取組内容・方法を定める。
学校ＩＣＴ化の推進【充実】	
各学校がＩＣＴを有効に活用できるようにするために、ＩＣＴ機器を全校に整備した。	クラウドサービスの積極的活用による教職員の負担軽減を推進する。また、ＩＣＴの有効活用に関する事例の共有を行い、研修会を実施する。

前計画	第２次計画
授業スタイルの確立・実施【新規】	
	「最初に復習をし、主体的に学習に取り組み、最後に学習内容をふりかえる問題に取り組み、宿題で定着を図る」などの授業スタイルを確立する。
学習内容を定着させるための教材の活用【新規《平成 29 年度から先行実施》】	
	授業の終末・宿題・単元末、学期末の「学習ふりかえり期間」等に「ふりかえりシート」等にある問題を活用して、学習内容の定着を図る。
自分の考えを記述する教材の活用【新規《令和元年度から先行実施》】	
	「全国学力・学習状況調査」や「児童・生徒の学力向上を図るための調査」問題を大問ごとに切り分けて学校へ提供し、思考力・判断力・表現力等の育成に関する取組の支援を行う。
指導のポイントの作成・活用【新規《平成 30 年度から先行実施》】	
	区全体で課題がみられた学習内容について、指導のポイントを作成し、各学校へ提供する。
各教科等の学習における図書館利用の推進【新規】	
	授業やレファレンス等への支援を学校図書館司書に協力を要請し、更なる活用を図る。
学習意欲に関する共同研究の成果に基づいた取組【充実】	
東京未来大学と学習意欲に関する共同研究を行った。	共同研究の成果について、教員を対象とした説明会を開催する。各学校は、説明会の内容等をもとに、児童・生徒の学習意欲の向上の取組を進める。
幼保小中一貫教育に関する学習指導の取組【充実《平成 30 年度から先行実施》】	
中学校区ブロックの実情に応じて、学習指導に関する連携・交流等を行った。	墨田区幼保小中一貫教育推進計画に基づき、中学校卒業までを見通した学習指導を、全ての中学校区ブロックで実施する（計画の検証を令和４年度に行う）。
家庭学習の充実【新規】	
	授業で学習した内容の定着（復習）だけでなく、次の授業の準備（予習）や自ら課題を見つけて行う学習（自習）に取り組ませ、家庭学習の充実を図る。また、家庭学習の仕方を指導し、家庭学習習慣の確立を図る。
ＰＴＡとの連携事業【新規《平成 30 年度から先行実施》】	
	小・中学校ＰＴＡ会長会へ訪問し、学力向上に関する情報の周知を行う。学校単位のＰＴＡからの依頼により、教育委員会の職員が説明会の講師として訪問する。

墨田区学力向上新３か年計画　前計画と第２次計画の事業一覧

墨田区学力向上新３か年計画

基本方針

1　児童・生徒の学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。
2　学習内容の定着に課題のある児童・生徒をフォローし、知識の定着を図る。
3　基礎・基本を中心にした確かな学力を身に付けるため、教員の授業力向上に取り組む。
4　発展的学習の機会を提供するための工夫に取り組む。

各計画における事業

学習意欲向上
- 「学習意欲の向上」に関する共同研究
- 家庭と地域の教育力充実事業
- 小学校就学前の家庭教育啓発資料の提供
- 中学校進学前の家庭教育啓発資料の提供

知識の定着
- 学力向上支援事業の実施(すみだSSTの活用)
- すみだチャレンジ教室の実施
- 学生ボランティアの活用
- 放課後子ども教室における学習活動への支援
- すみだスクールサポートティーチャーの登録・情報提供・育成

教員の授業力向上
- 学校ICT化の推進
- 墨田区教育研究奨励事業
- 教育指導向上研修
- 年次別の教員研修
- 理科教育の充実(教育指導員の配置、ニュースの発行)
- 理科教育等設備整備費
- 墨田区学習状況調査・分析
- 授業改善プランに基づく授業改善サイクルの確立

発展的学習
- 習熟度別指導の実施
- 図書館を使った調べる学習コンクール
- 学校支援ネットワーク事業
- 先進的な取組の調査・周知等
- 幼保小中連携の推進(英語教育など)

墨田区学力向上新３か年計画（第２次）

児童・生徒に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に定着させ、思考力・判断力・表現力等を育み、自ら進んで学びに向かう力を養う。
ア　全ての小・中学校は、組織的に学力向上に取り組む。
イ　全ての教員は、よりよい授業の実現を目指す。
ウ　学校や教育委員会は、家庭・地域と連携して、更なる学力向上を図る。

組織的な取組

	墨田区学習状況調査
充実	墨田区学習状況調査結果を活用したPDCAサイクルの確立
	全国学力・学習状況調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査
	墨田区教育研究奨励事業
新規	学力向上委員長の指名及び学力向上委員会の設置

よりよい授業の実現

充実	学校ICT化の推進
	教育指導向上研修
	経験年数や教育課題に対応した研修
	習熟度別指導・少人数習熟度別指導の実施
	学力向上プランの作成・実施
新規	授業スタイルの確立・実施
新規	学習内容を定着させるための教材の活用
新規	自分の考えを記述する教材の活用
新規	指導のポイントの作成・活用
	教育研究所ニュースの発行・活用
新規	各教科等の学習における図書館利用の推進
充実	学習意欲に関する共同研究の成果に基づいた取組
充実	幼保小中一貫教育に関する学習指導の取組
	学校支援ネットワーク事業

家庭・地域との連携

	放課後や長期休業中の補習の充実
	放課後子ども教室における学習活動への支援
	すみだチャレンジ教室の実施
新規	家庭学習の充実
	家庭と地域の教育力充実事業
	図書館を使った調べる学習コンクール
	小学校すたーとブック・中学校入学プレブックの配布
新規	PTAとの連携事業